

消防年報 2021

第52号



養老駅 : 1913年7月13日、養老鉄道終着駅として開通

養老町消防本部

町民憲章実践のまち

当町は、海拔ゼロメートルに近い低湿地帯から標高八百メートルの山地までの地勢にあり、水と緑に恵まれた歴史のまちです。このすばらしい自然を生かし、町民が健康で心豊かに安心して住めるまち、誇れるふるさと、花づくりを通じて美しいまち“養老”を築きあげるものであります。

そしていま、約28,000町民の真の実践を通して新しい時代、新しい環境に適合する人間づくりが、町民のなかにほうはいとして湧きあがっています。

あいさつあふれる明るいまち、力いっぱい働ける楽しいまち、町名にふさわしい、老後も豊かなまちは、町民みんなの、すぐそばにある理想郷でもあります。そこには、やはり、災害のないまち、安心して住めるまちがまちづくりの基本であります。一層のお力添えをお願い申し上げます。



養老町長
大橋 孝

養老町民憲

わたしたちの町、養老町は、緑の山、清らかな水に恵まれた歴史の町です。

わたしたちの、この美しいふるさととは、先人のたゆまぬ努力によって伸びつづけてきました。

わたしたちは愛の輪をさらにひろげ、力をあわせて未来につづく明るい町をつくりまします。

1. おはよう こんにちは と元気な声がわく町にしましょう

1. 美しい自然の中で力いっぱい働ける町にしましょう

1. おとしよりも豊かにくらせる町にしましょう

目 次

はしがき		曜日別救急出動件数	38
消防の沿革	1	事故種別・年齢区分別搬送人員	39
消 防 情 勢		救急医療情報システム案内状況(診療科目別)	40
養老町・大垣市上石津町 勢	14	救急医療情報システム案内状況(通報別)	40
消防予算	14	普通救命講習等受講者数	41
消防予算と町予算の累年比較	14	救 助	
消防組織(機構)	15	事故種別救助活動・出動車両状況	42
人口等に対する消防力の比較	15	救助活動に関する一覧表	43
消防本部、事務分掌表	16	予 防	
署事務分掌表	18	防火対象物調	44
消防力の整備指針と現有消防力との比較	19	消防用設備等の指導	45
消防職員在職年数調	20	対象物別消防用設備状況	45
消防本部(署)消防ポンプ等配備表	21	危険物製造所等地区別現況表	46
救助隊保有救助器具表	21	類別危険物製造所等調	46
指令系統図	22	数量別危険物製造所等調	47
消防団		危険物製造所等設置変更許可件数表	47
消 防 団	23	危険物製造所等完成検査済証交付件数表	47
消防団機構	23	建築同意構造統計表	48
養老町消防団表彰歴	24	建築同意工事別統計表	48
養老町消防団現勢力	26	各種届出処理状況	48
養老町消防団員在職年数調	26	業態別建築物確認申請同意状況	49
養老町消防団ポンプ配置表	27	気 象	
図 表		月別気象	50
養老町消防ポンプ配置図	28	雨量統計	51
養老町火災発生分布図	29	雨量統計(過去5年間)	51
大垣市上石津町火災発生分布図	30	月別湿度表	52
火災件数・損害額表	31	月別気温表	52
消防水利の現況	32	女性防火クラブ	
火 災		女性防火クラブ連絡協議会構成	53
火災統計	33	養老町女性防火クラブ連絡協議会会員数調	54
覚知別件数	34	少年消防クラブ・幼年消防クラブ	
出火原因別火災件数	34	少年消防クラブ名及びクラブ員数	55
月別火災件数(過去3年間)	35	幼年消防クラブ名及びクラブ員数	55
月別火災状況	35		
救 急			
地区別救急出動件数(養老町)	36		
地区別救急出動件数(大垣市上石津町)	36		
覚知別通報件数	37		
救急出動件数(過去3年間)	37		
時間別救急出動件数	38		

は し が き

この消防統計書は令和2年度中の養老町、大垣市上石津町における消防諸般の状況を集録し、併せて累年の消防状況を比較検討し、今後の火災予防の資料にすることを目的として編さんしたものです。

今後、消防行政の向上発展の資料となり関係各位のご支援とご協力をいただければ幸いと存じます。

令和3年8月

養老町消防本部

全国統一防火標語

平成30年度

忘れてない？ 財布にスマホ 火の確認

平成31年・令和元年度

ひとつずつ いいね！で確認 火の用心

令和2年度

その火事を 防ぐあなたに 金メダル

消 防 の 沿 革

年 次	で き ご と
昭和 29 年 11 月 3 日	高田町、養老村、広幡村、上多度村、池辺村（大字駒野新田、大字釜段字徳島を除く）、笠郷村、小畑村、多芸村、日吉村、不破郡合原村大字室原の区域を合併し、養老町新設に伴い、養老町連合消防団を設置し高田、養老、広幡、上多度、池辺、笠郷、小畑、多芸、日吉、室原の各地区に消防団を置く。定数 1,036 名。連合消防団長に内堀保一氏就任。
昭和 30 年 4 月 1 日	海津郡南濃町の一部が吸収合併となり、上多度消防団に編入。組織変更のため笠郷消防団を増員。日吉消防団に室原消防団を統合。 9 分団、定数 1,067 名とする。
昭和 31 年 4 月 1 日	組織変更のため定数 1,015 名とする。 （高田、笠郷、日吉消防団の組織変更）
昭和 32 年 3 月 1 日	養老町連合消防団を発展的解団し、養老町消防団を設置。定数 894 名に減員。初代団長に津田潔氏就任。
昭和 37 年 12 月 1 日	養老町消防団施設整備 5 ヶ年計画を樹立する。
昭和 38 年 1 月 28 日	養老町消防団常備部を発足（消防車 1 台、小型ポンプ 1 台、部員 10 名を配置）するとともに、非常備消防団員を 685 名に減員する。
昭和 38 年 8 月 20 日	ニッサンジープ消防車を購入。8 月 28 日第 6 分団（笠郷）に配置す。
昭和 38 年 10 月 1 日	ニッサン消防車（タンク水槽付 1,500ℓ）購入。町消防団常備部に 2 号車として配置。
昭和 39 年 2 月 28 日	養老町消防団常備部に消防無線電話基地局 1 基、移動局 1 基を設置し運用開始。
昭和 39 年 4 月 1 日	養老町消防団常備部に部員 2 名増員、総員 12 名となる。
昭和 39 年 12 月 3 日	養老町消防団常備部に部員 1 名増員、総員 13 名となる。
昭和 39 年 12 月 4 日	ニッサンジープ消防車購入。第 9 分団（日吉）に設置。
昭和 40 年 4 月 1 日	養老町消防団常備部 1 名役場へ異動、総員 12 名となる。
昭和 40 年 10 月 26 日	美津濃(株)養老工場へ天皇、皇后両陛下幸啓につき団員奉迎。
昭和 41 年 4 月 8 日	養老町消防団常備部に部員 2 名増員、総員 14 名となる。
昭和 41 年 8 月 1 日	養老町消防団常備部分駐所を根古地地区に新設のため起工式を行う。 （鉄骨平屋建て 111.6 m ² ）
昭和 41 年 10 月 20 日	養老町消防団常備部に部員 3 名増員、総員 17 名となる。
昭和 41 年 11 月 5 日	養老町消防団常備部分駐所竣工につき、消防車、小型ポンプ各 1 台を配置し、

昭和 41 年 12 月 12 日	部員 6 名をもって開所。
昭和 41 年 12 月 16 日	津田 潔団長、町長に就任につき退団、後任として伊藤信義氏団長に就任。 養老町消防団常備部分駐所消防車に消防専用無線電話、移動局 1 基を設置し運用を開始。
昭和 42 年 4 月 1 日	養老町消防団常備部に部員 1 名増員、総員 18 名となる。
昭和 42 年 4 月 1 日	常備消防強化に伴い、団員 536 名に減員。また、町消防団施設整備要綱全部を改正し、施設の強化を図る。
昭和 42 年 6 月 1 日	養老町内消防水利に指定消防水利標識を設置。
昭和 42 年 8 月 5 日	小型ポンプ（ラビット）3 台購入。第 1 分団第 1 部（高田）、第 4 分団第 3 部（有尾）、第 6 分団第 6 部（大野）配置。
昭和 42 年 9 月 5 日	小型ポンプ（トーハツ）及び積載車（トヨペット）購入し第 7 分団に配置。
昭和 42 年 9 月 21 日	養老町消防団常備部に部員 1 名増員、総員 19 名となる。
昭和 43 年 2 月 20 日	ニッサンセドリックバン救急車 1 台購入。町消防団常備部に配置し、救急業務を開始。
昭和 43 年 3 月 2 日	養老町消防団常備部に部員 1 名増員、総員 20 名となる。
昭和 43 年 3 月 18 日	養老町消防団常備部救急車に、消防専用無線電話、移動局 1 基設置し運用を開始。
昭和 43 年 7 月 16 日	積載車（トヨペット）2 台、小型ポンプ（ラビット）3 台購入。第 1 分団第 1 部（高田）積載車 1 台、第 1 分団第 4 部（押越）小型ポンプ 1 台、第 2 分団第 2 部（竜泉寺）小型ポンプ及び積載車各 1 台、第 5 分団第 3 部（大場）小型ポンプ 1 台を配置。
昭和 43 年 8 月 13 日	自治体消防制度 20 周年記念県大会（常陸宮、同妃殿下ご臨席）に、町消防団、婦人消防隊、少年消防隊より 90 名参加。
昭和 43 年 9 月 10 日	飛驒川バス転落事故者遺体捜索のため町消防団より 30 名が出動。
昭和 44 年 4 月 1 日	養老町消防本部、署設置条例が公布され、ここに養老町消防本部、署が誕生し、消防業務を行うことになった。 初代消防長に津田 潔氏就任。総員 22 名となる。
昭和 44 年 4 月 8 日	町民センターにおいて開署式を行う。
昭和 44 年 5 月 13 日	小型ポンプ（トーハツ）6 台購入。第 1 分団第 2 部（島田）、同第 3 部（下高田）、第 3 分団第 2 部（飯ノ木）、第 5 分団第 2 部（釜段）、第 6 分団第 2、3 部（下笠北、上之郷）に配置。
昭和 44 年 6 月 1 日	消防職員 1 名増員、総員 23 名となる。
昭和 44 年 8 月 11 日	消防職員 1 名増員、総員 24 名となる。
昭和 45 年 1 月 1 日	消防職員 1 名増員、総員 25 名となる。
昭和 45 年 5 月 2 日	消防職員 1 名退職、総員 24 名となる。
昭和 45 年 5 月 18 日	トヨタマーク II ライトバン 1 台購入。本部車兼指令車兼救急車として養老消防署に配置。

昭和 45 年 9 月 11 日	町内 14 婦人消防隊を統合し、養老町婦人消防隊を結成、初代隊長に三浦美佐子氏就任。隊員数 1,722 名。
昭和 45 年 9 月 12 日	全消防団員に作業服を購入し、貸与する。
昭和 45 年 10 月 8 日	小型ポンプ（トーハツ）付積載車（45 年式トヨタスタウト）1 台購入。第 5 分団第 5、6 部（大巻）に配置。
昭和 46 年 1 月 8 日	毎月 8 日「町民防火の日」とする旨宣言し、自主防火の推進を図ることを決議した。
昭和 46 年 3 月 15 日	消防職員 2 名増員、総員 26 名となる。
昭和 46 年 4 月 1 日	消防事務吏員 1 名増員、総員 27 名となる。
昭和 46 年 7 月 1 日	消防職員 1 名増員、総員 28 名となる。
昭和 46 年 7 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 27 名となる。
昭和 46 年 8 月 4 日	小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 2 分団第 3 部（養老公園）、第 7 分団第 2 部（大坪）に配置。
昭和 46 年 9 月 30 日	消防職員 1 名役場へ異動、総員 26 名となる。
昭和 46 年 10 月 1 日	消防職員 1 名役場より異動、総員 27 名となる。
昭和 46 年 12 月 1 日	三菱ジープを高木組より寄付を受け、指令車として養老消防署に配置。
昭和 47 年 4 月 1 日	消防職員 3 名増員、総員 30 名となる。
昭和 47 年 8 月 11 日	小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 2 分団第 1 部（沢田）、第 7 分団第 2 部（飯田）に配置。
昭和 47 年 8 月 19 日	消防車（ニッサン）1 台購入。養老消防署に配置。
昭和 47 年 12 月 6 日	消防車（ニッサン）1 台購入。第 1 分団第 1 部（高田）に配置。
昭和 47 年 12 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 29 名となる。
昭和 48 年 3 月 20 日	消防職員 1 名増員、総員 30 名となる。
昭和 48 年 4 月 1 日	消防職員 1 名増員、総員 31 名となる。
昭和 48 年 4 月 30 日	消防職員 1 名退職、総員 30 名となる。
昭和 48 年 5 月 30 日	消防職員 1 名退職、総員 29 名となる。
昭和 48 年 7 月 1 日	消防職員 1 名役場へ異動、総員 28 名となる。
昭和 48 年 8 月 1 日	消防職員 1 名増員、総員 29 名となる。
昭和 48 年 8 月 9 日	小型ポンプ（トーハツ）4 台購入。第 4 分団第 4 部（一色）、第 5 分団第 1 部（根古地）、第 9 分団第 1 部（橋爪）、第 9 分団第 3 部（室原）に配置。
昭和 48 年 9 月 1 日	消防職員 1 名増員、総員 30 名となる。
昭和 48 年 11 月 1 日	岐阜県婦人防火クラブ運営協議会長より表彰を受ける。
昭和 49 年 1 月 4 日	消防職員 1 名増員、総員 31 名となる。
昭和 49 年 3 月 5 日	消防職員 1 名増員、総員 32 名となる。
昭和 49 年 3 月 31 日	消防事務吏員 1 名役場へ異動、総員 31 名となる
昭和 49 年 4 月 1 日	消防事務吏員 1 名役場より異動、総員 32 名となる。
昭和 49 年 4 月 12 日	岐阜県消防長総会が本町で開催される。

昭和 49 年 8 月 3 日	消防車（ニッサン）1 台購入。第 8 分団第 1 部（三神町）に配置。
昭和 49 年 9 月 3 日	小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 7 分団第 1 部（祖父江）、第 8 分団第 2 部（直江）に配置。
昭和 49 年 9 月 25 日	消防職員 1 名退職、総員 31 名となる。
昭和 49 年 12 月 5 日	日本赤十字社岐阜県支部より半額補助を受け、トヨタマークⅡライトバン 1 台購入。救急車として養老消防署に配置。
昭和 50 年 3 月 31 日	消防職員 2 名役場へ異動、総員 29 名となる。
昭和 50 年 4 月 1 日	伊藤信義団長退団につき栗田實氏が消防団長に就任。
昭和 50 年 4 月 1 日	消防職員 2 名増員、総員 31 名となる。
昭和 50 年 4 月 1 日	消防職員 1 名役場より異動、総員 32 名となる。
昭和 50 年 8 月 31 日	消防事務吏員 1 名退職、総員 31 名となる。
昭和 50 年 9 月 8 日	消防事務吏員 1 名増員、総員 32 名となる。
昭和 50 年 9 月 10 日	財団法人日本船舶振興会よりトヨタハイエース（RH I I V）1 台寄付、救急車として養老消防署に配置、10 月 1 日より救急業務に従事。
昭和 50 年 9 月 30 日	小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 4 分団第 1 部（鷺巣）、第 5 分団第 4 部（瑞穂）に配置。
昭和 50 年 10 月 3 日	新消防庁舎建設起工式を行う。
昭和 50 年 10 月 31 日	消防車（ニッサン）1 台購入。第 3 分団第 1 部（ロヶ島）に配置。
昭和 51 年 2 月 15 日	小型ポンプ（トーハツ）1 台購入。養老消防署に配置。
昭和 51 年 4 月 1 日	消防職員 1 名増員、総員 33 名となる。
昭和 51 年 7 月 14 日	新消防庁舎竣工。延べ面積 856.31 m ² 。
昭和 51 年 8 月 24 日	消防車（ニッサン）1 台購入。第 4 分団第 2 部（小倉）に配置。
昭和 51 年 8 月 24 日	小型ポンプ（トーハツ）3 台購入。第 1 分団第 5 部（烏江）、第 5 分団第 7 部（小坪）、第 6 分団第 5 部（船附）に配置。
昭和 52 年 4 月 1 日	消防職員 1 名増員、総員 34 名となる。
昭和 52 年 6 月 7 日	本部車を更新（トヨタマークⅡ）。
昭和 52 年 9 月 13 日	救助用ボート 2 艇、船外機（9.8 馬力）2 機、救命胴衣 16 着購入。
昭和 52 年 9 月 16 日	化学消防車（三菱 F U S O ディーゼル）購入。養老消防署に配置。
昭和 53 年 1 月 1 日	消防職員 1 名役場へ異動、総員 33 名となる。
昭和 53 年 3 月 31 日	消防職員 1 名役場へ異動、総員 32 名となる。
昭和 53 年 4 月 1 日	消防事務吏員 1 名増員、総員 33 名となる。
昭和 53 年 4 月 1 日	消防団ラッパ隊を隊長以下 13 名で編成。団員総数 550 名となる。初代ラッパ隊長に他田嘉太郎氏就任。
昭和 53 年 9 月 1 日	消防車（ニッサン）1 台購入。第 6 分団第 4 部（栗笠）に配置。
昭和 53 年 9 月 1 日	小型ポンプ（トーハツ）3 台購入。第 1 分団第 1 部（高田）、第 4 分団第 3 部（三郷）、第 6 分団第 6 部（大野）に配置。
昭和 53 年 9 月 27 日	財団法人日本消防協会より広報車（三菱ギャラン）1 台寄贈。養老消防署に配置。

昭和 54 年 4 月 1 日	上石津町の消防事務を受託。
昭和 54 年 4 月 2 日	消防職員 9 名増員、総員 42 名となる。
昭和 54 年 8 月 30 日	消防車（ニッサン）1 台購入。養老消防署南部分駐所に配置。
昭和 54 年 9 月 30 日	消防車（ニッサン）1 台購入。第 9 分団第 2 部（中）に配置。小型ポンプ 3 台購入。第 1 分団第 4 部（押越）、第 2 分団第 2 部（竜泉寺）、第 5 分団第 3 部（大場）に配置。
昭和 54 年 10 月 1 日	上石津消防署を設置、署員 10 名。消防車（ニッサン）1 台、救急車（トヨタマーク II）1 台、指令車（コロナ）1 台を配置し、消防業務を開始。 延べ面積 377.83 m ²
昭和 55 年 3 月 24 日	社団法人日本損害保険協会より救急車（ニッサンキャラバン）1 台寄贈、上石津消防署に配置。
昭和 55 年 4 月 1 日	消防職員 3 名増員、総員 45 名となる。
昭和 55 年 4 月 1 日	二代目消防長に内堀靖郎氏就任。
昭和 55 年 6 月 20 日	工作車（日野）1 台購入。養老消防署に配置。
昭和 55 年 9 月 20 日	小型ポンプ（トーハツ）5 台購入。第 1 分団第 2 部（島田）、第 1 分団第 3 部（下高田）、第 3 分団第 2 部（飯ノ木）、第 5 分団第 2 部（釜段）、第 6 分団第 1 部（下笠南）に配置。
昭和 56 年 4 月 1 日	消防職員 2 名増員、総員 47 名となる。
昭和 56 年 8 月 28 日	消防車（トヨタ）1 台購入。第 7 分団第 2 部（飯田、大坪、蛇持）に配置。及び小型ポンプ 3 台購入。第 5 分団第 5、6 部（大巻）、第 6 分団第 3 部（上之郷）、第 6 分団第 2 部（下笠北）に配置。
昭和 56 年 9 月 22 日	財団法人日本消防協会より救急車（ニッサンキャラバン）1 台寄贈。養老消防署に配置。救急車（トヨタハイエース）を南部分駐所に配置、救急業務を開始。積載車 1 台購入。養老消防署に配置。
昭和 56 年 9 月 30 日	消防職員 1 名退職、総員 46 名となる。
昭和 57 年 3 月 31 日	消防事務吏員 1 名役場へ異動、総員 45 名となる。
昭和 57 年 4 月 1 日	消防事務吏員 1 名役場より異動、総員 46 名となる。
昭和 57 年 4 月 1 日	消防職員 2 名増員、総員 48 名となる。
昭和 57 年 5 月 1 日	消防本部旗を杉野充氏より寄贈。
昭和 57 年 9 月 28 日	消防車（トヨタ）1 台購入。第 2 分団第 2 部（上方、竜泉寺、勢至、石畑、柏尾）に配置。及び小型ポンプ 3 台購入。第 2 分団第 1 部（沢田）、第 7 分団第 2 部（大坪）、第 9 分団第 3 部（室原）に配置。
昭和 58 年 3 月 31 日	二代目消防長内堀靖郎氏役場へ異動、総員 47 名となる。
昭和 58 年 4 月 1 日	三代目消防長に日比哲夫氏が役場より異動、総員 48 名となる。
昭和 58 年 4 月 1 日	栗田 實消防団長退団につき、近藤光雄氏が消防団長に就任。
昭和 58 年 11 月 26 日	小型ポンプ 2 台購入。第 4 分団第 4 部（一色）、第 9 分団第 1 部（橋爪）に配置。

昭和 59 年 2 月 10 日	優良婦人消防隊として日本消防協会長より表彰旗を受ける。
昭和 59 年 3 月 1 日	消防車（トヨタ）1 台購入。第 5 分団第 5, 6 部（大巻）に配置。
昭和 59 年 3 月 25 日	養老ライオンズクラブより、三菱ジープ（パジェロ）の寄贈を受け、指令車として養老消防署に配置。
昭和 59 年 4 月 1 日	消防職員 2 名増員、総員 50 名となる。
昭和 59 年 4 月 10 日	消防職員 1 名退職、総員 49 名となる。
昭和 59 年 8 月 13 日	小型ポンプ（トーハツ）1 台購入。第 7 分団第 1 部（江月、祖父江）に配置。
昭和 60 年 3 月 31 日	三代目消防長日比哲夫氏役場へ異動、総員 48 名となる。
昭和 60 年 3 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 47 名となる。
昭和 60 年 4 月 1 日	四代目消防長に川地敏和氏役場より異動、総員 48 名となる。
昭和 60 年 5 月 23 日	ライトバン（トヨタマーク II）を購入。消防本部 本部車として配置。
昭和 60 年 7 月 1 日	優良婦人消防隊として消防庁長官より消防関係安全功労賞を受ける。
昭和 60 年 7 月 19 日	優良消防本部として日本消防協会長より感謝状を受ける。
昭和 60 年 9 月 24 日	小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 4 分団第 1 部（鷺巣）、第 5 分団第 4 部（瑞穂）に配置。
昭和 60 年 11 月 10 日	消防車（三菱）1 台購入。養老消防署に配置。
昭和 61 年 3 月 31 日	消防事務吏員 1 名役場へ異動、総員 47 名となる。
昭和 61 年 3 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 46 名となる。
昭和 61 年 4 月 1 日	消防事務吏員 1 名役場より異動、総員 47 名となる。
昭和 61 年 4 月 1 日	消防職員 2 名増員、総員 49 名となる。
昭和 61 年 7 月 1 日	婦人消防隊に火災予防活動及び火災予防思想の普及功績により内閣総理大臣表彰を受ける。
昭和 61 年 9 月 25 日	小型ポンプ（トーハツ）3 台購入。第 1 分団第 5 部（烏江）、第 5 分団第 7 部（小坪）、第 6 分団第 5 部（船附）に配置。
昭和 62 年 3 月 31 日	四代目消防長川地敏和氏役場へ異動、総員 48 名となる。
昭和 62 年 4 月 1 日	五代目消防長に田中敏夫氏役場より異動。総員 49 名となる。
昭和 62 年 8 月 24 日	林野火災用軽可搬ポンプ 2 台購入。養老消防署、上石津消防署各 1 台配置。
昭和 62 年 9 月 21 日	消防車（トヨタ）1 台購入。第 1 分団第 1 部（高田）に配置。
昭和 62 年 10 月 7 日	第 3 回全国婦人消防操法大会に岐阜県代表として出場（横浜市）。
昭和 63 年 3 月 1 日	日本自動車工業会より救急車（トヨタハイエース 2B 型）寄贈を受ける。
昭和 63 年 4 月 1 日	消防団組織の簡素合理化に伴い団員総数 425 名となる。
昭和 63 年 6 月 3 日	日本防火協会より町婦人消防隊へ防火広報車（ニッサンキャラバン）1 台寄贈を受ける。
昭和 63 年 9 月 16 日	小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 4 分団第 3 部（有尾、横屋、田）、第 6 分団第 6 部（大野）に配置。
昭和 63 年 9 月 23 日	自治体消防発足 40 周年記念行事の一環として消防団、婦人消防隊、少年・幼年消防クラブ計 1,718 名が参加、総合体育館において養老町消防広場を開催する。

昭和 63 年 12 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 48 名となる。
平成 元 年 1 月 8 日	1 月 7 日天皇ご崩御により本町も自粛の意味をもち平成元年消防出初式中止となった。
平成 元 年 3 月 31 日	五代目消防長田中敏夫氏及び消防事務吏員 1 名役場へ異動、総員 46 名となる。
平成 元 年 4 月 1 日	六代目消防長に栗田時夫氏及び消防事務吏員 1 名役場より異動、総員 48 名となる。
平成 元 年 4 月 1 日	消防職員 4 名増員、総員 52 名となる。
平成 元 年 9 月 27 日	消防車（ニッサン）1 台購入。第 8 分団第 1 部（多芸）に配置。
平成 元 年 9 月 27 日	小型ポンプ（トーハツ）3 台購入。第 1 分団第 4 部（押越）、第 2 分団第 3 部（養老）、第 5 分団第 3 部（大場）に配置。
平成 元 年 11 月 1 日	第 10 回岐阜県ラッパ競練大会が土岐市において開催され、西濃地区代表として養老郡ラッパ隊が出場し、第 3 位に入賞する。
平成 元 年 12 月 26 日	救助工作車（日野Ⅱ型）を購入。養老消防署に配置。
平成 元 年 12 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 51 名となる。
平成 2 年 2 月 14 日	養老町消防団が日本消防協会より竿頭綬表彰を受ける。
平成 2 年 6 月 1 日	消防職員 1 名役場へ異動、総員 50 名となる。
平成 2 年 9 月 17 日	小型ポンプ 5 台購入。第 1 分団第 2 部（島田）、第 1 分団第 3 部（下高田）、第 3 分団第 2 部（飯ノ木、大跡）、第 5 分団第 2 部（釜段）、第 6 分団第 1 部（下笠南）に配置。
平成 2 年 12 月 5 日	消防車（ニッサン）1 台購入。第 3 分団第 1 部（ロヶ島）に配置。
平成 3 年 2 月 14 日	財団法人日本消防協会より救急車（ニッサン）寄贈。上石津消防署に配置。
平成 3 年 3 月 31 日	六代目消防長栗田時夫氏異動により町収入役に就任される。総員 49 名となる。
平成 3 年 4 月 1 日	七代目消防長に西脇孝雄氏役場より異動、総員 50 名となる。
平成 3 年 4 月 1 日	消防職員 1 名増員、総員 51 名となる。
平成 3 年 8 月 24 日	消防車（ニッサン）1 台購入。第 4 分団第 2 部（小倉）に配置。
平成 3 年 9 月 17 日	軽自動車（ダイハツミラ）を購入。消防本部広報車として配置。
平成 3 年 9 月 30 日	小型ポンプ（トーハツ）3 台購入。第 5 分団第 1 部（根古地）、第 6 分団第 2 部（下笠北）、第 6 分団第 3 部（上之郷）に配置。
平成 3 年 12 月 24 日	消防車（三菱）1 台購入。上石津消防署に配置。
平成 4 年 9 月 30 日	小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 2 分団第 1 部（沢田、桜井、五日市）、第 9 分団第 3 部（色目、室原）に配置。
平成 4 年 12 月 18 日	化学消防車（日野Ⅱ型）を購入。養老消防署に配置。
平成 5 年 3 月 31 日	七代目消防長西脇孝雄氏役場へ異動、総員 50 名となる。
平成 5 年 4 月 1 日	八代目消防長に田中三木男氏役場より異動、総員 51 名となる。
平成 5 年 4 月 1 日	消防職員 1 名増員、総員 52 名となる。

平成 5 年 4 月 1 日	近藤光雄消防団長退団につき、橋本政寿氏が消防団長に就任。
平成 5 年 11 月 7 日	小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 4 分団第 4 部（一色、船見、若宮）、第 9 分団第 1 部（橋爪、中）に配置。
平成 5 年 11 月 30 日	消防車（三菱）1 台購入。養老消防署南部分駐所に配置。
平成 5 年 12 月 20 日	消防車（ニッサン）1 台購入。第 6 分団第 4 部（栗笠）に配置。
平成 6 年 4 月 1 日	消防職員 1 名増員、総員 53 名となる。
平成 6 年 11 月 13 日	小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 7 分団第 1 部（江月、祖父江）、第 8 分団第 2 部（直江、金屋、飯積）に配置。
平成 6 年 12 月 18 日	消防車（トヨタ）1 台購入。第 9 分団第 2 部（豊、宇田、安久）に配置。
平成 7 年 3 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 52 名となる。
平成 7 年 3 月 31 日	八代目消防長田中三木男氏及び消防事務吏員 1 名役場へ異動、総員 50 名となる。
平成 7 年 4 月 1 日	九代目消防長に松葉巖氏役場より異動、総員 51 名となる。
平成 7 年 4 月 1 日	消防職員 4 名増員、総員 55 名となる。
平成 7 年 4 月 1 日	橋本政寿消防団長退団につき、日比野豊氏が消防団長に就任。
平成 7 年 5 月 21 日	ワゴン（トヨタマーク II）を購入。消防本部 本部車として配置。
平成 7 年 9 月 22 日	小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 4 分団第 1 部（鷺巣）、第 5 分団第 4 部（瑞穂）に配置。
平成 7 年 11 月 30 日	高規格救急車（トヨタ）1 台購入。養老消防署に配置。
平成 8 年 3 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 54 名となる。
平成 8 年 4 月 1 日	養老町婦人消防隊を養老町女性防火クラブ連絡協議会に改称。
平成 8 年 9 月 9 日	日本損害保険協会より水槽付消防車（日野）の寄贈を受けタンク車として、養老消防署に配置。
平成 8 年 12 月 17 日	消防車（トヨタ）1 台購入。第 7 分団第 2 部（飯田、大坪、蛇持）に配置。
平成 8 年 12 月 17 日	小型ポンプ（シバウラ）3 台購入。第 1 分団第 5 部（烏江）、第 5 分団第 6 部（高柳、小坪）、第 6 分団第 5 部（船附）に配置。
平成 9 年 3 月 31 日	九代目消防長松葉巖氏役場へ異動、総員 53 名となる。
平成 9 年 4 月 1 日	十代目消防長渋谷満氏役場より異動、総員 54 名となる。
平成 9 年 4 月 1 日	消防職員 3 名増員、総員 57 名となる。
平成 9 年 10 月 6 日	救急車（トヨタ）1 台購入。養老消防署南部分駐所に配置。
平成 9 年 11 月 25 日	消防車（トヨタ）1 台購入。第 2 分団第 2 部（上方、竜泉寺、喜勢、石畑、柏尾）に配置。
平成 10 年 3 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 56 名となる。
平成 10 年 10 月 22 日	小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 4 分団第 3 部（三郷）、第 6 分団第 6 部（大野）に配置。
平成 10 年 10 月 29 日	消防車（トヨタ）1 台購入。第 5 分団第 5 部（大巻内、仁保、美波）に配置。

平成 11 年 1 月 8 日	日比野豊消防団長退団につき、横山貞光氏が消防団長に就任。
平成 11 年 3 月 31 日	十代目消防長渋谷 満氏役場へ異動、総員 55 名となる。
平成 11 年 3 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 54 名となる。
平成 11 年 4 月 1 日	消防職員より初の十一代目消防長七里正昭氏となる。
平成 11 年 9 月 8 日	小型ポンプ（トーハツ）3 台購入。第 1 分団第 4 部（押越）、第 2 分団第 3 部（白石）、第 5 分団第 3 部（大場）に配置。
平成 12 年 1 月 8 日	消防団機構改革により、定員 400 名となる。特別団員制度に改正。
平成 12 年 1 月 31 日	消防車（三菱）1 台購入。養老消防署に配置。
平成 12 年 3 月 30 日	消防指令車（三菱）1 台購入。養老消防署に配置。
平成 12 年 3 月 31 日	消防職員 2 名退職、総員 52 名となる。
平成 12 年 4 月 1 日	消防職員 4 名増員、総員 56 名となる。
平成 12 年 6 月 18 日	小型ポンプ（トーハツ）5 台購入。第 1 分団第 2 部（島田）、第 1 分団第 3 部（下高田）、第 3 分団第 2 部（飯ノ木、大跡）、第 5 分団第 2 部（釜段）、第 6 分団第 1 部（下笠南）に配置。
平成 12 年 7 月 30 日	第 49 回岐阜県消防操法大会を開催（養老町スマイルグラウンド）。
平成 12 年 8 月 10 日	消防職員 1 名退職、総員 55 名となる。
平成 12 年 9 月 30 日	消防職員 1 名退職、総員 54 名となる。
平成 12 年 11 月 23 日	消防職員 1 名退職、総員 53 名となる。
平成 13 年 1 月 1 日	養老郡消防協会事務局が消防本部内へ移管。
平成 13 年 3 月 8 日	消防庁長官より表彰旗表彰。
平成 13 年 3 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 52 名となる。
平成 13 年 4 月 1 日	消防職員 3 名増員、総員 55 名となる。
平成 13 年 7 月 23 日	高規格救急車（トヨタ）1 台購入。上石津消防署に配置。
平成 13 年 11 月 25 日	小型ポンプ（トーハツ）3 台購入。第 5 分団第 1 部（根古地）、第 6 分団第 2 部（下笠）、第 6 分団第 3 部（上之郷）に配置。 消防車（三菱）1 台購入。第 1 分団第 1 部（高田）に配置。
平成 14 年 3 月 26 日	養老消防署指令室仮眠室等増改築。鉄骨造 2 階建、建築面積 447.23 ㎡。 消防緊急通信指令施設 I 型設置。
平成 14 年 3 月 31 日	十一代目消防長七里正昭氏退職、総員 54 名となる。 消防職員 1 名退職、総員 53 名となる。
平成 14 年 4 月 1 日	十二代目消防長西脇正博氏役場より異動、総員 54 名となる。 消防職員 2 名増員、総員 56 名となる。 南部分駐所を南部分署に昇格。
平成 14 年 11 月 9 日	小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 2 分団第 1 部（沢田）、第 9 分団第 3 部（室原）に配置。
平成 14 年 11 月 11 日	国土交通省中部整備局長表彰受賞。
平成 15 年 3 月 31 日	消防職員 3 名退職、総員 53 名となる。

平成 15 年 4 月 1 日	消防職員 3 名増員、総員 56 名となる。
平成 15 年 5 月 1 日	全消防職員に新活動服を貸与。
平成 15 年 10 月 12 日	消防車（いすゞ）1 台購入。第 8 分団第 1 部（泉町、三神町、滝見町）に配置。 小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 4 分団第 4 部（一色、船見、若宮）、第 9 分団第 1 部（橋爪、中）に配置。
平成 15 年 12 月 12 日	救助工作車（名古屋三菱ふそう）購入。養老消防署に配置。
平成 16 年 4 月 1 日	消防職員 2 名増員、総員 58 名となる。
平成 16 年 6 月 7 日	全消防職員に新防火衣セットを貸与。
平成 16 年 10 月 24 日	「消防感謝祭」防火のつどいを開催。
平成 16 年 11 月 1 日	養老消防署南部分署新築移転竣工式を行う。
平成 16 年 12 月 18 日	消防車（日野）1 台購入。第 3 分団第 1 部（ロヶ島、西岩道、岩道）に配置。 小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 7 分団第 1 部（江月、祖父江）、第 8 分団第 2 部（直江、金屋、飯積）に配置。
平成 17 年 1 月 9 日	全消防団員に法被を貸与。消防団幹部に新防火衣セットを貸与。機動車の部に新防火衣セット 5 式を貸与。女性防火クラブ連絡協議会全会員に新制服を貸与。
平成 17 年 4 月 14 日	県消防長会総会を開催。
平成 17 年 6 月 20 日	トヨタアイシスを購入。本部車として養老消防署に配置。
平成 17 年 9 月 27 日	高規格救急車（トヨタ）1 台購入。養老消防署に配置。
平成 17 年 10 月 16 日	小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 4 分団第 1 部（鷺巣）、第 5 分団第 4 部（瑞穂）に配置。
平成 18 年 3 月 27 日	上石津町が大垣市と合併。大垣市より事務委託を受ける。 上石津消防署を上石津分署に降格。
平成 18 年 3 月 31 日	十二代消防長西脇正博氏役場へ異動、総員 57 名となる。
平成 18 年 4 月 1 日	十三代消防長伊藤信彦氏役場より異動、総員 58 名となる。
平成 18 年 10 月 15 日	消防車（いすゞ）1 台購入。第 4 分団第 2 部（小倉・西小倉）に配置。
平成 19 年 2 月 28 日	消防職員 1 名退職、総員 57 名となる。
平成 19 年 3 月 4 日	団本部及び各分団（9 分団）に投光器セット（発電機付）を各台配置。
平成 19 年 3 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 56 名となる。
平成 19 年 10 月 14 日	小型ポンプ（シバウラ）3 台購入。第 1 分団第 5 部（烏江）、第 5 分団第 6 部（高柳・小坪）、第 6 分団第 5 部（船附）に配置。
平成 19 年 12 月 13 日	化学消防ポンプ自動車Ⅱ型（日野）購入。養老消防署に配置。
平成 20 年 1 月 8 日	横山貞光消防団長退団につき、細川重正氏が消防団長に就任。
平成 20 年 1 月 17 日	団本部に投光器セット（発電機付・4 灯式）を配置。
平成 20 年 3 月 31 日	消防職員 2 名退職、総員 54 名となる。
平成 20 年 4 月 1 日	消防職員 3 名増員、総員 57 名となる。
平成 20 年 9 月 30 日	消防職員 1 名退職、総員 56 名となる。

平成 20 年 10 月 19 日	消防車（日野）1 台購入。第 6 分団第 4 部（栗笠）に配置。
平成 21 年 2 月 17 日	消防車（日野）1 台納入。上石津分署に配置。
平成 21 年 3 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 5 5 名となる。
平成 21 年 4 月 1 日	消防職員 1 名増員、総員 5 6 名となる。
平成 21 年 6 月 30 日	消防職員 1 名退職、総員 5 5 名となる。
平成 21 年 7 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 5 4 名となる。
平成 21 年 9 月 1 日	消防職員 1 名退職、総員 5 3 名となる。
平成 21 年 9 月 30 日	消防職員 1 名退職、総員 5 2 名となる。
平成 22 年 3 月 19 日	消防車（日野）1 台購入。南部分署に配置。
	高規格救急車（トヨタ）1 台購入。南部分署に配置。
平成 22 年 3 月 31 日	十三代消防長伊藤信彦氏役場へ異動、総員 5 1 名となる。
平成 22 年 4 月 1 日	十四代消防長佐竹種男氏役場より異動、総員 5 2 名となる。 消防職員 2 名増員、総員 5 4 名となる。
平成 23 年 4 月 1 日	消防職員 3 名増員、総員 5 7 名となる。
平成 23 年 9 月 30 日	十四代消防長佐竹種男氏役場へ異動、総員 5 6 名となる。
平成 23 年 10 月 1 日	内部昇格により、十五代消防長小林恒夫氏就任する。
平成 23 年 11 月 9 日	高規格救急車（トヨタ）1 台納入。上石津分署に配置。
平成 24 年 1 月 8 日	細川重正消防団長退団につき、岡本盛氏が消防団長に就任。
平成 24 年 3 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 5 5 名となる。
平成 24 年 4 月 1 日	消防職員 2 名増員、総員 5 7 名となる。
平成 24 年 10 月 14 日	消防車（日野）1 台購入。第 9 分団第 2 部（豊・宇田・安久）に配置。
平成 25 年 1 月 8 日	岡本盛消防団長退団につき、伊藤勝則氏が消防団長に就任。
平成 25 年 3 月 31 日	十五代消防長小林恒夫氏退職、総員 5 6 名となる。
平成 25 年 4 月 1 日	十六代消防長堀田明男氏就任する。 消防職員 2 名増員、総員 5 8 名となる。
平成 25 年 7 月 14 日	小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 4 分団第 3 部（有尾・田・横屋）、第 6 分団第 6 部（大野）に配置。
平成 26 年 3 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 5 7 名となる。
平成 26 年 7 月 5 日	小型ポンプ（トーハツ）3 台購入。第 1 分団第 4 部（押越）、第 2 分団第 3 部（白石）、第 5 分団第 3 部（大場）に配置。
平成 26 年 10 月 8 日	消防車（日野）1 台購入。第 7 分団第 2 部（飯田）に配置。
平成 27 年 2 月 10 日	養老消防署指令棟増築。鉄筋造 3 階建、建築面積 117.05 m ² 。
平成 27 年 3 月 10 日	養老消防署指令棟において運用開始式を行う。
平成 27 年 3 月 27 日	高機能消防指令センター設置。
平成 27 年 3 月 31 日	消防職員 2 名退職、総員 5 5 名となる。
平成 27 年 4 月 1 日	消防職員 4 名増員うち 1 名は再任用、総員 5 9 名となる。

平成 27 年 11 月 15 日	消防車（日野）1 台購入。第 2 分団第 2 部（上方・竜泉寺・喜勢・石畑）に配置。
平成 28 年 2 月 26 日	総務省消防庁より消防団多機能車貸与。
平成 28 年 3 月 23 日	養老消防署指令棟において消防救急デジタル無線及び消防団多機能車運用開始式を行う。
平成 28 年 3 月 31 日	十六代消防長堀田明男氏他 5 名退職、総員 5 4 名となる。
平成 28 年 4 月 1 日	十七代消防長川添公男氏就任する。 消防職員 6 名増員うち 2 名再任用（事務職員 1 名）、総員 6 0 名となる。
平成 28 年 9 月 30 日	消防車（日野）1 台購入、5 分団第 5 部（大巻の内、仁保、美波、上、寺町、堤）に配置。
平成 28 年 11 月 18 日	高規格救急車（トヨタ）1 台購入。養老消防署に配置。
平成 28 年 12 月 8 日	日本消防協会より消防指令車（スバル）寄贈、養老消防署に配置。
平成 29 年 3 月 31 日	十七代消防長川添公男氏他 1 名退職。総員 5 8 名となる。
平成 29 年 4 月 1 日	消防職員 2 名役場へ異動。総員 5 6 名となる。 十八代消防長野村博治氏、及び次長、役場より異動。総員 5 8 名となる。 消防職員 2 名増員、総員 6 0 名（事務職員 1 名）となる。
平成 29 年 10 月 8 日	小型ポンプ（トーハツ）3 台購入。第 1 分団第 3 部（下高田）、第 3 分団第 2 部（ロケ島、西岩道、岩道）、第 6 分団第 1 部（下笠の内、三ツ屋、懐、溝）に配置。
平成 30 年 1 月 26 日	水槽付ポンプ自動車（日野）1 台購入。養老消防署に配置。
平成 30 年 2 月 28 日	消防職員 1 名退職、総員 5 9 名となる。
平成 30 年 3 月 31 日	消防職員 2 名再任用（事務職員 1 名）退職、総員 5 7 名となる。 消防職員 2 名役場へ異動、総員 5 5 名となる。
平成 30 年 4 月 1 日	消防職員 1 名役場より異動、総員 5 6 名となる。 消防職員 5 名増員、総員 6 1 名となる。
平成 30 年 5 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 6 0 名となる。
平成 30 年 6 月 11 日	養老消防署耐震補強及び災害時救助活動拠点整備工事実施。
平成 30 年 9 月 30 日	十八代消防長野村博治氏役場へ異動、総員 5 9 名となる。
平成 30 年 10 月 1 日	十九代消防長三和隆夫氏就任する。
平成 30 年 10 月 7 日	小型ポンプ（トーハツ）3 台購入。第 1 分団第 2 部（島田）、第 5 分団第 1 部（根古地）、第 6 分団第 2 部（下笠の内、西江下、東江下、中村、和田、中島、野崎）に配置。
平成 31 年 3 月 15 日	養老消防署耐震補強及び災害時救助活動拠点整備工事完了。
平成 31 年 3 月 31 日	消防職員 2 名退職、総員 5 7 名となる。
平成 31 年 4 月 1 日	消防職員 5 名増員、総員 6 2 名となる。
令和 2 年 1 月 31 日	消防職員 2 名退職、総員 6 0 名となる。
令和 2 年 3 月 31 日	十九代消防長三和隆夫氏他 1 名退職。総員 5 8 名となる。
令和 2 年 4 月 1 日	消防職員 3 名増員、総員 6 1 名となる。 二十代消防長廣澤幸雄氏就任する。
令和 2 年 10 月 1 日	消防職員 2 名増員、総員 6 3 名となる。
令和 2 年 12 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 6 2 名となる。

令和3年3月31日

消防職員1名退職、総員61名となる。

令和3年4月1日

消防職員3名増員、総員64名となる。

消防情勢

養老町消防本部・養老消防署



養老消防署 南部分署



養老消防署 上石津分署



養老町・大垣市上石津町 勢

概 況

		(養老町)	(大垣市上石津町)	(計)
位 置	東 経	1 3 6 度 3 4 分	1 3 6 度 2 8 分	-
	北 緯	3 5 度 1 8 分	3 5 度 1 7 分	-
	海 抜	9. 8 m	1 1 8. 7 m	-
	総面積	7 2. 2 9 km ²	1 2 3. 3 8 km ²	1 9 5. 6 7 km ²
				(R3. 4. 1)
人 口	総人口	2 8, 0 2 1 人	5, 2 2 5 人	3 3, 2 4 6 人
世 帯 数	総世帯数	1 0, 4 4 5 世帯	1. 9 9 8 世帯	1 2, 4 3 3 世帯

消防常備部発足	昭和38年 1月 1日
消防常備部南部分駐所発足	昭和41年11月 1日
消防本部、署発足	昭和44年 4月 4日
上石津消防署発足	昭和54年10月 1日
南部分署設置	平成14年 4月 1日
上石津分署設置	平成18年 3月27日

消 防 予 算

(単位：千円)

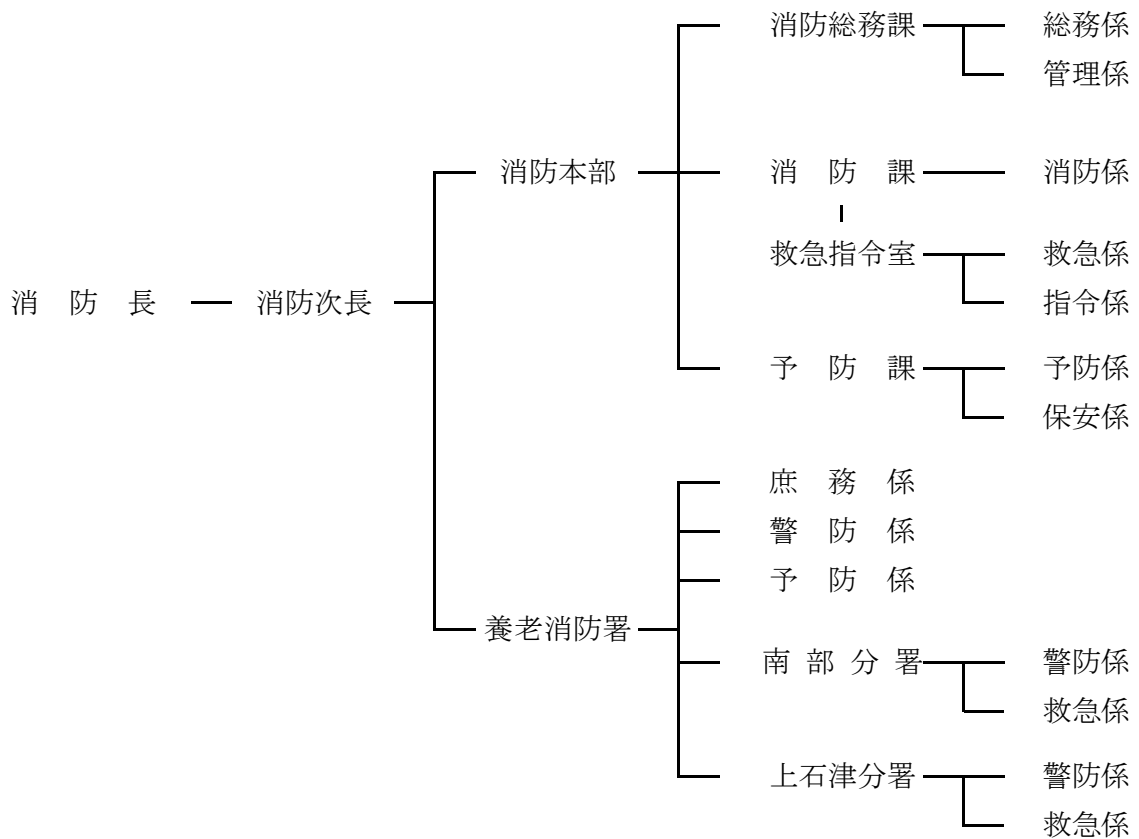
年度 費 目	平成31年・令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)
常 備 消 防 費	512,394	527,166	566,184
非 常 備 消 防 費	65,596	59,037	59,078

消 防 予 算 と 町 予 算 の 累 年 比 較

(単位：千円)

年度 区 分	平成31年・令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)
町一般会計歳出予算額	12,908,000	11,006,000	11,223,000
消 防 費	695,987	1,028,257	651,605
比 率 (%)	5.4%	9.3%	5.8%

消 防 組 織 (機 構)



人口等に対する消防力の比較

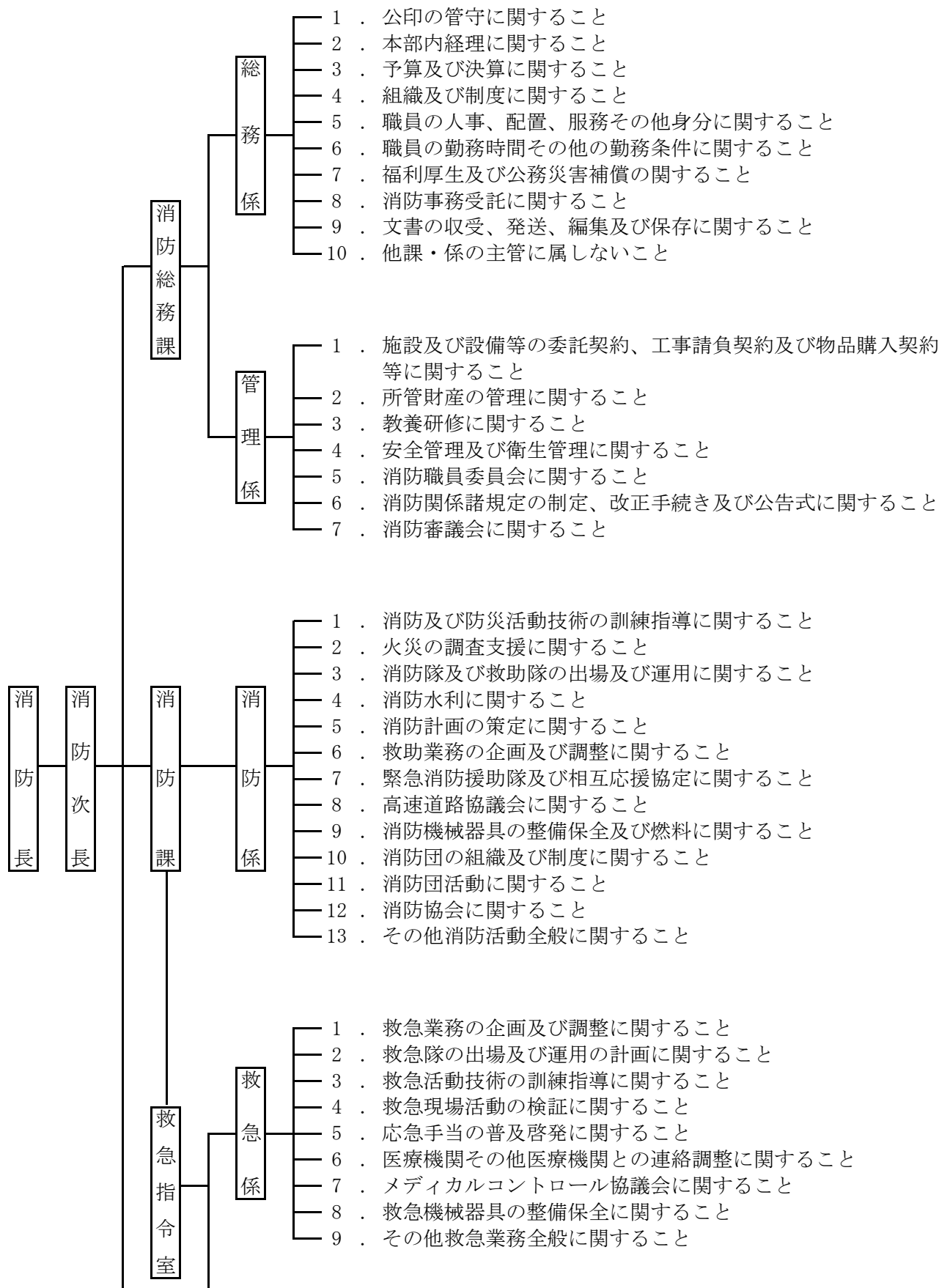
常備

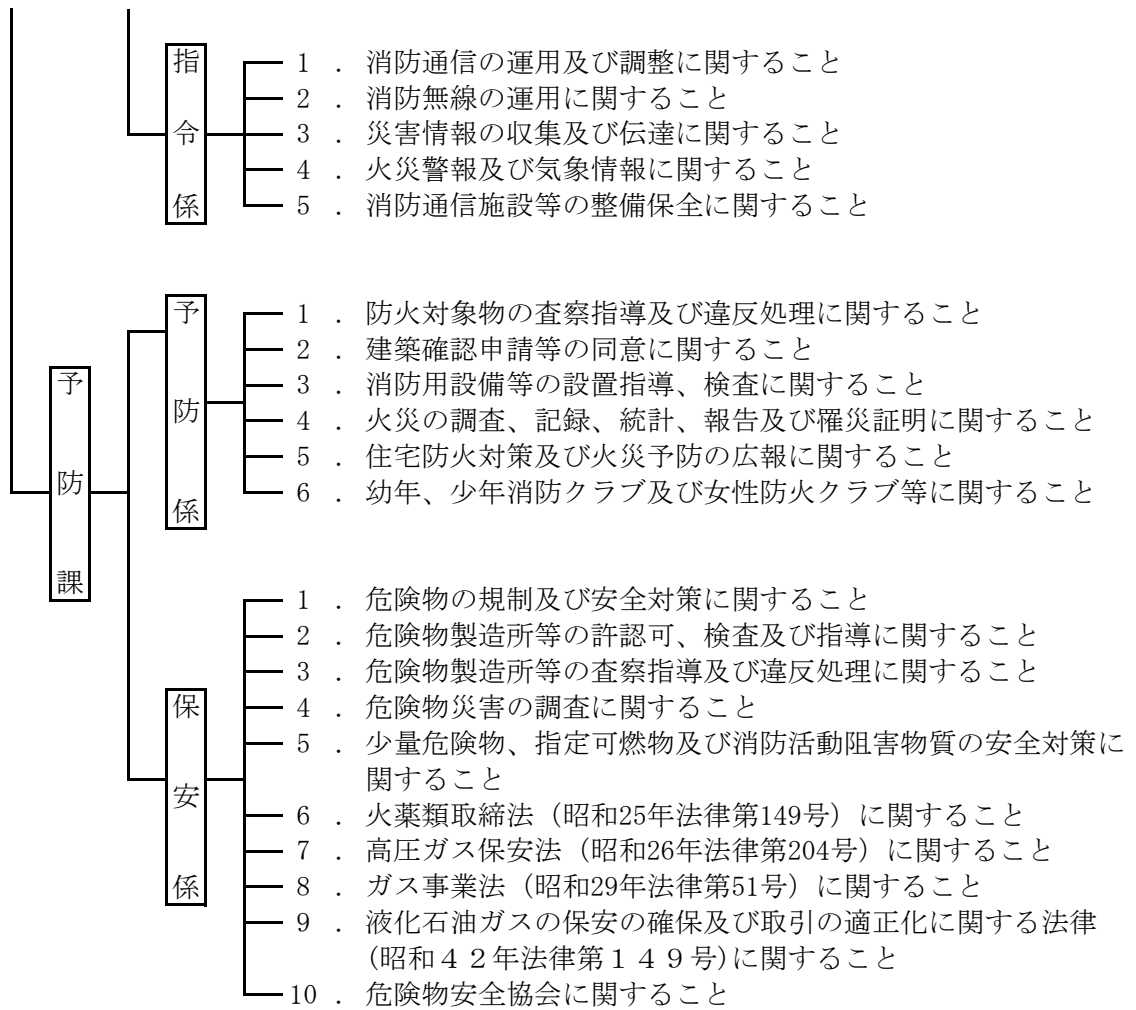
消防吏員 1 人に対する (職員 : 64人)			ポンプ車 1 台に対する (水槽付き含む) (4台)		
面積 (km ²)	人口 (人)	世帯数 (戸)	面積 (km ²)	人口 (人)	世帯数 (戸)
3.1	519.5	194.3	48.9	8311.5	3110.8

非常備

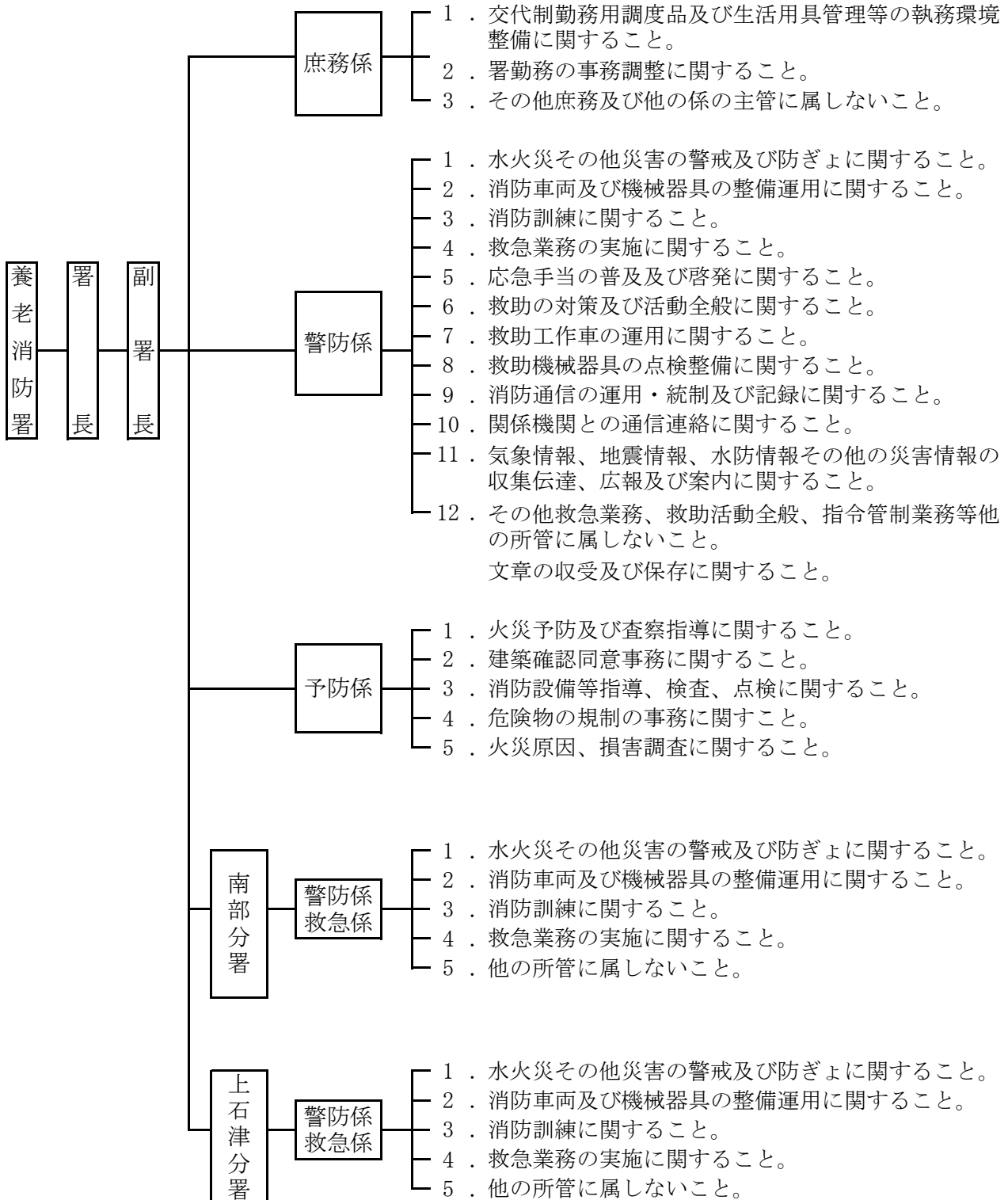
消防団員 1 人に対する (団員 : 287人)			小型ポンプ 1 台に対する (24台)		
面積 (km ²)	人口 (人)	世帯数 (戸)	面積 (km ²)	人口 (人)	世帯数 (戸)
0.3	97.6	36.4	3.0	1167.5	435.2

消防本部 事務分掌表





署 事務分掌表



消防力の整備指針と現有消防力との比較

R3. 4. 1

施設に係る指針

基準消防力	基準	現有	過不足	備考
署所の数	3	3		
消防ポンプ自動車	4	4		
はしご車	1		-1	
化学消防車	1	1		
救助工作車	1	1		
救急車	3	3		
特殊車等	7	7		
指揮車	1	2	1	

人員に係る指針

基準消防力	基準	現有	過不足	備考
警防要員	91人	司令長 1人 司令 13人 司令補 20人 士長 8人 副士長 2人 消防士 20人	-47人	算出基準 人口12/100,000× 補正係数
予防要員	11人			
救助のための要員				
通信員	2人			
庶務の処理等の人員	7人			
合計	111人	64人	-47人	

消防職員在職年数調

R3. 4. 1

階級 年数	階級							階級 年数	階級						
	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防長	消防副長	消防士	計		消防司令長	消防司令	消防司令補	消防長	消防副長	消防士	計
実員	1	13	20	8	2	20	64	22年							
1年未満						5	5	23年							
1年						3	3	24年		1	2				3
2年						5	5	25年			1				1
3年						4	4	26年		2	1				3
4年						1	1	27年							
5年						2	2	28年							
6年					1		1	29年							
7年								30年			1				1
8年				2			2	31年							
9年				2			2	32年		2	2				4
10年				2	1		3	33年							
11年			1				1	34年							
12年								35年		2					2
13年				2			2	36年							
14年								37年		1					1
15年								38年							
16年								39年		1					1
17年			2				2	40年		2					2
18年			2				2	41年	1	2					3
19年			1				1	42年							
20年			3				3	43年							
21年			4				4	44年							

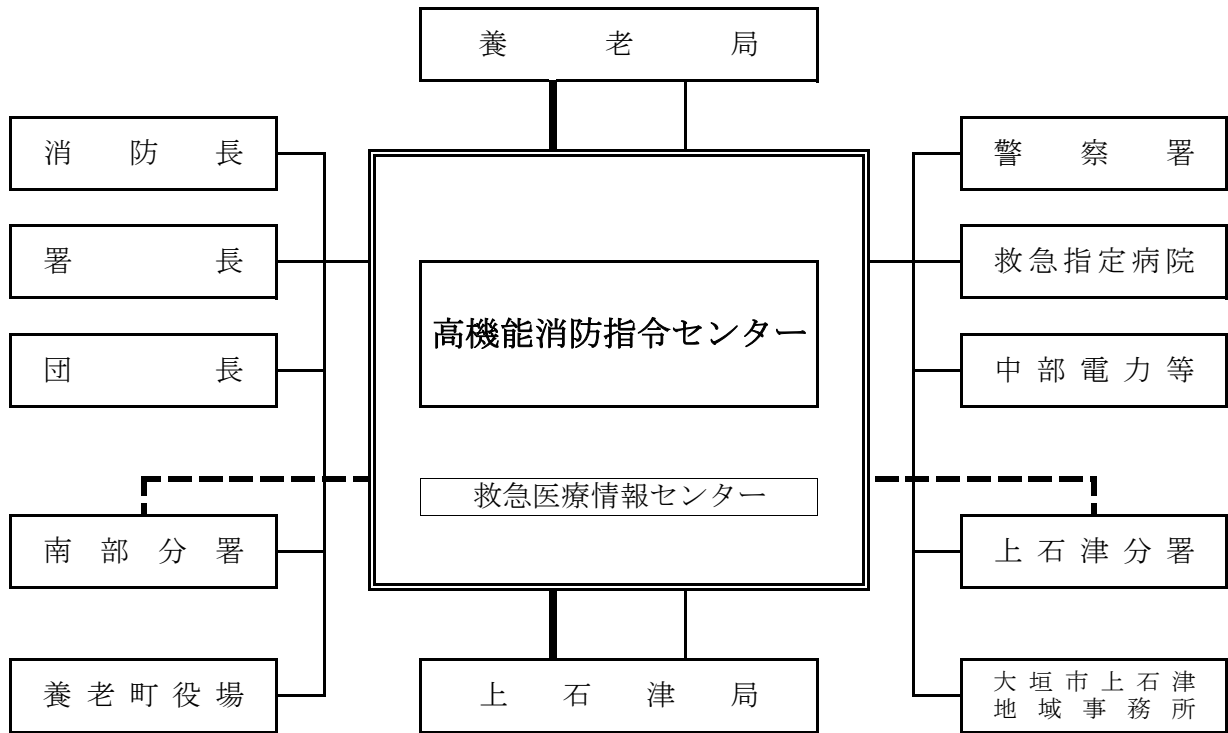
消防本部（署）消防ポンプ等配備表

所属	区分	種別	車名	登録年	ポンプ			備考
					名称	型式	規格	
消防本部	消防署	消防ポンプ自動車	ミツビシ	H12	モリタ	2段式バランスタービン	A2	無線機付
		〃	ヒノ	H21	〃	〃	〃	無線機付
		〃	〃	H22	〃	〃	〃	無線機付
		5t水槽付消防ポンプ自動車	〃	H30	長野	〃	〃	無線機付水5000L
		化学消防ポンプ自動車	〃	H19	〃	〃	〃	無線機付水1,500L薬剤500L
		高規格救急自動車	トヨタ	H28	—	—	—	無線機付
		〃	〃	H23	—	—	—	〃
		〃	〃	H22	—	—	—	〃
		〃（予備車）	〃	H17	—	—	—	〃
		指令車	スバル	H28	—	—	—	〃
		〃	トヨタ	H16	—	—	—	〃
		本部車	トヨタ	H17	—	—	—	〃
		広報車	ダイハツ	H16	—	—	—	〃
		〃	トヨタ	H18	—	—	—	〃
		資機材運搬車	トヨタ	H3	—	—	—	〃
		〃	〃	H7	—	—	—	〃
		救助工作車	ミツビシ	H15	三菱ふそう	—	—	無線機・クレーン・照明灯・ウインチ付

救助隊保有救助器具表

品名	数量	品名	数量	品名	数量
かぎ付きはしご	1	鉄線カッター	1	防塵メガネ	5
三連梯子	1	空気鋸	1	化学防護服（陽圧式除く）	9
ワイヤー梯子	1	大型油圧切断機	1	潜水器具	5
空気式救助マット	1	空気切断機	1	救命胴衣	5
救命索発射銃	1	万能斧	3	救命浮環	1
救助用縛帯	3	ハンマー	2	救命ボート	1
油圧ジャッキ	2	携帯用コンクリート破壊器具	1	船外機	1
油圧スプレッダー	1	ハンマドリル	1	水中スクーター	1
可搬ウインチ	1	可燃性ガス測定器	2	登山器具	1
マンホール救助器具	1	有毒ガス測定器	2	バスケット型担架	1
マット型空気ジャッキ	1	酸素濃度測定器	3	携帯投光器	3
大型油圧スプレッダー	1	空気呼吸器	4	携帯拡声器	2
救助用支柱器具	1	空気補充用ポンベ	10	携帯無線機	2
油圧切断機	1	防塵マスク	5	応急処置用セット	1
エンジンカッター	1	送排風機	1	車両移動器具	1
ガス溶断器	1	耐電手袋	3	発電機	1
チェーンソー	1	耐電長靴	3		

指令系統図



凡例

- 火災報知専用電話
- 加入電話
- - - 指令電送

無線局一覧表

陸上移動局	
ようろう1	ようろう101
ようろう2	ようろう102
ようろう3	ようろう103
ようろう4	ようろう104
ようろう41	ようろう105
ようろう51	ようろう106
ようろう52	ようろう107
ようろう61	ようろう108
ようろう62	ようろう109
ようろう71	ようろう110
ようろう72	ようろう111
ようろう73	ようろう112
きゅうきゅうようろう1	ようろう113
きゅうきゅうようろう2	ようろう114
きゅうきゅうようろう3	ようろう115
	ようろう116

陸上移動局	
かみいしづ1	
かみいしづ51	
かみいしづ71	
かみいしづ73	
きゅうきゅうかみいしづ1	
かみいしづ101	
かみいしづ102	
かみいしづ103	

防災相互波	
ぼうたいようろう102	
ぼうたいようろう105	
ぼうたいようろう106	
ぼうたいようろう107	

消 防 団

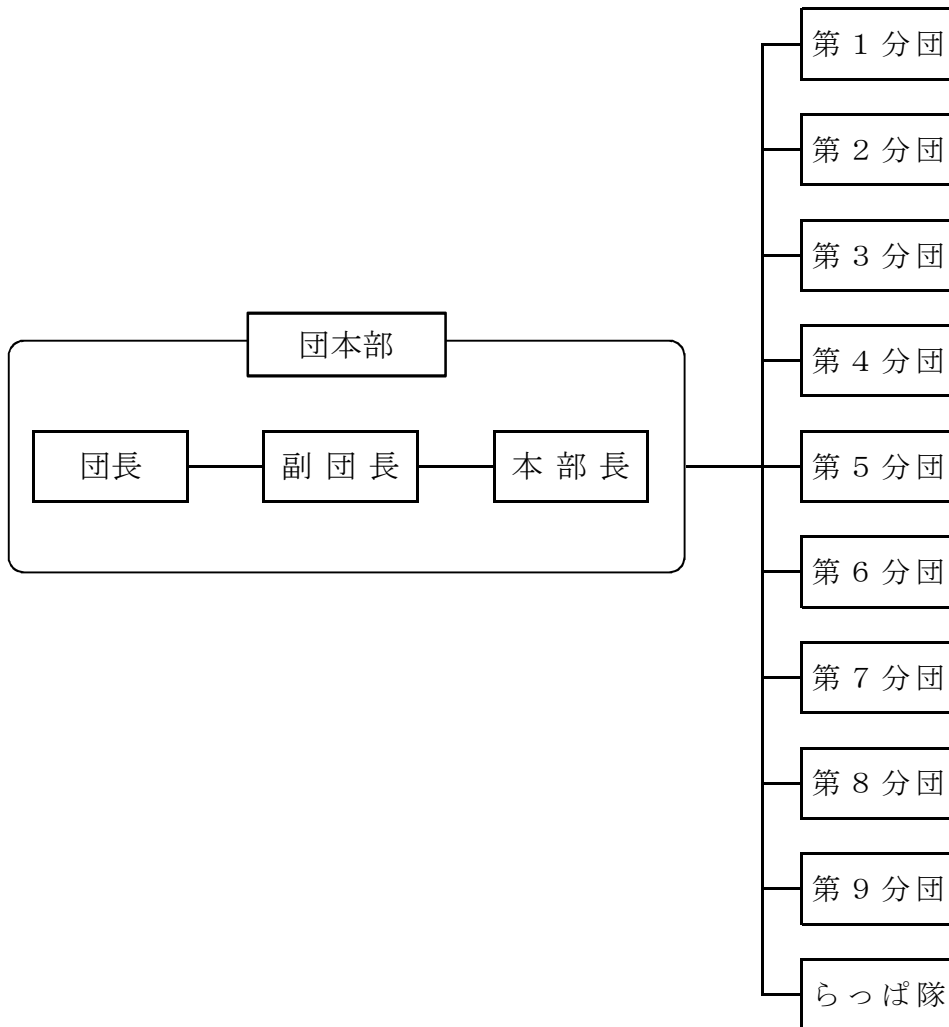


消 防 団

主として火災の警戒及び鎮圧、その他災害の防除及び被害の軽減等の消防活動に従事する市町村の公的機関である消防団は、養老町では9箇分団が編成され、団員数287人で、消防団長を中心に日夜活躍しています。

(R3.4.1現在)

消 防 団 機 構



養老町消防団表彰歴

年 次	表 彰 事 項
昭和33年 3月18日	第1回南濃消防操法大会に総合優勝
昭和34年11月10日	昭和34年8月12日の集中豪雨水害功勞
昭和34年12月 1日	伊勢湾台風水害救助功勞
昭和34年12月 9日	台風15号の風水害の災害救助功勞
昭和35年 3月 8日	昭和34年8月及び9月の風水害公務遂行功勞
昭和35年12月 1日	金馬れん表彰
昭和36年 3月22日	第4回南濃消防操法大会に総合優勝
昭和37年 2月11日	団旗竿頭綬表彰
昭和37年 3月22日	第5回南濃消防操法大会に総合優勝
昭和37年 4月29日	第11回県消防操法大会小型ポンプの部5位入賞
昭和38年 5月10日	第12回消防操法大会自動車の部優勝
昭和39年 3月28日	第7回南濃消防操法大会に総合優勝
昭和39年 4月29日	第13回県消防操法大会小型ポンプの部5位入賞
昭和39年12月 1日	知事旗表彰
昭和40年 4月29日	第14回県消防操法大会自動車の部優勝
昭和40年10月13日	昭和40年9月15日の集中豪雨及び台風15号災害防止 功勞
昭和40年12月24日	国体警衛警備の事故防止功勞
昭和43年 3月 7日	日本消防協会旗表彰
昭和46年 3月 4日	消防庁長官より竿頭綬表彰
昭和46年11月18日	昭和46年11月18日台風13号の風水害公務遂行功勞
昭和51年 9月 8日	昭和51年9月8日台風17号の風水害公務遂行功勞 竿頭綬、日本消防協会長、赤城宗徳
昭和59年 8月 5日	第33回県消防操法大会小型ポンプの部10位入賞
平成 2年 2月14日	竿頭綬、日本消防協会長
平成12年11月 1日	岐阜県知事より消防団年間優秀賞受賞

年 次	表 彰 事 項
平成13年 3月 8日	消防庁長官より表彰旗表彰
平成14年11月10日	岐阜県知事より消防団年間優秀賞受賞
平成14年11月11日	国土交通省中部整備局長表彰
平成18年 8月 6日	第55回県消防操法大会小型ポンプの部5位入賞
平成19年 8月 5日	第56回県消防操法大会自動車ポンプの部9位入賞
平成25年 8月20日	日本消防協会より竿頭綬表彰
平成28年11月13日	知事旗表彰
平成29年11月30日	国土交通省中部地方整備局長表彰

養老町消防団現勢力

R3.4.1

種別 分団別	現在員	機械			
		ポンプ車	小型ポンプ	多機能車	計
本 部	6		2	1	3
第1分団	46	1	4		5
第2分団	26	1	2		3
第3分団	20	1	1		2
第4分団	27	1	3		4
第5分団	46	1	5		6
第6分団	45	1	5		6
第7分団	18	1	1		2
第8分団	20	1	1		2
第9分団	26	1	2		3
ラッパ隊	7				
合 計	287	9	26	1	36

養老町消防団員在職年数調

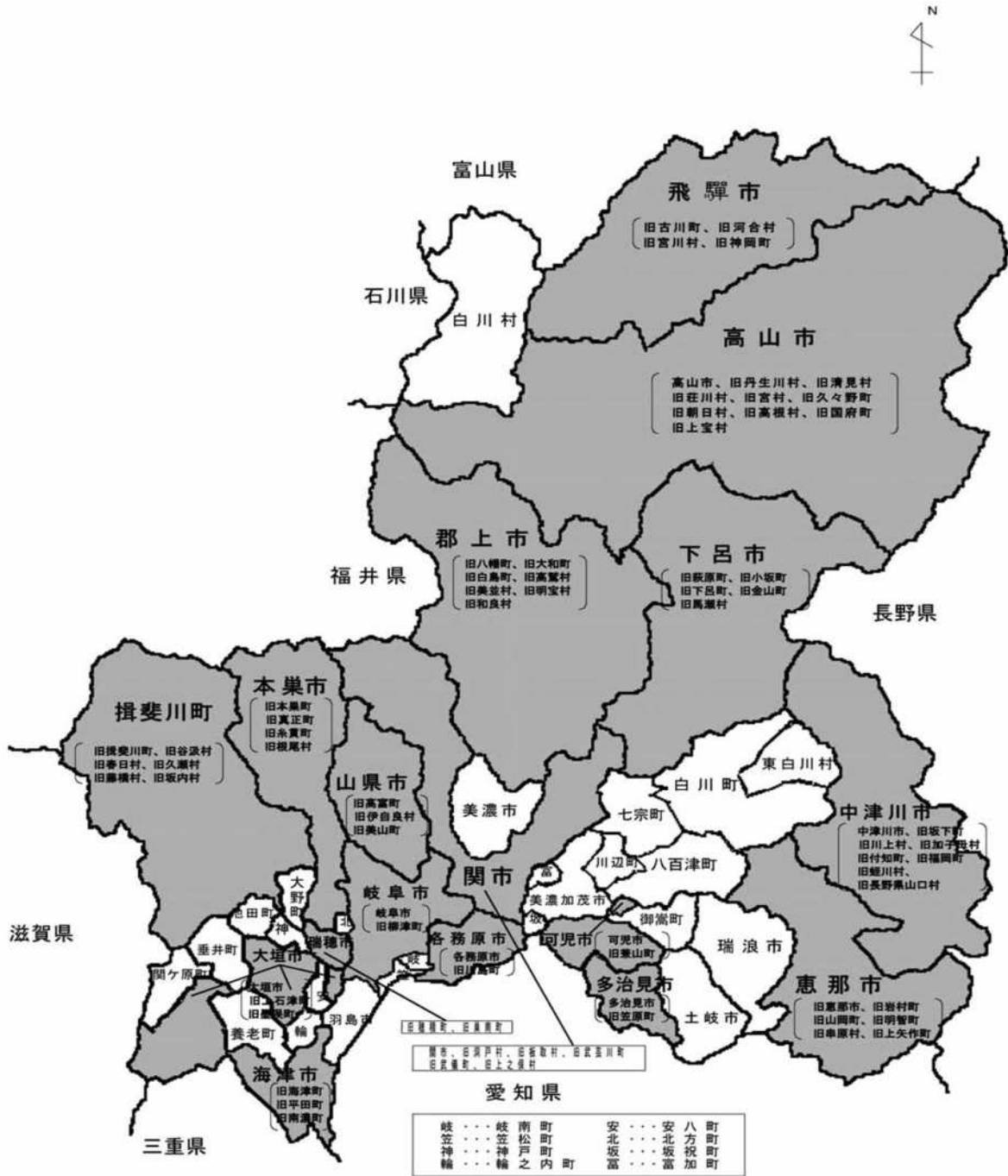
R3.4.1

階級 年数	団長	副団長	分団長	副分団長	班長	団員	計
1年未満						23	23
1年～4年					24	134	158
5年～9年			1		6	45	52
10年～14年			2	7	3	19	31
15年～19年		1	5			8	14
20年～24年	1	1	3			1	6
25年～29年						1	1
30年～34年							
35年～39年			1				1
40年以上						1	1
計	1	2	12	7	33	232	287

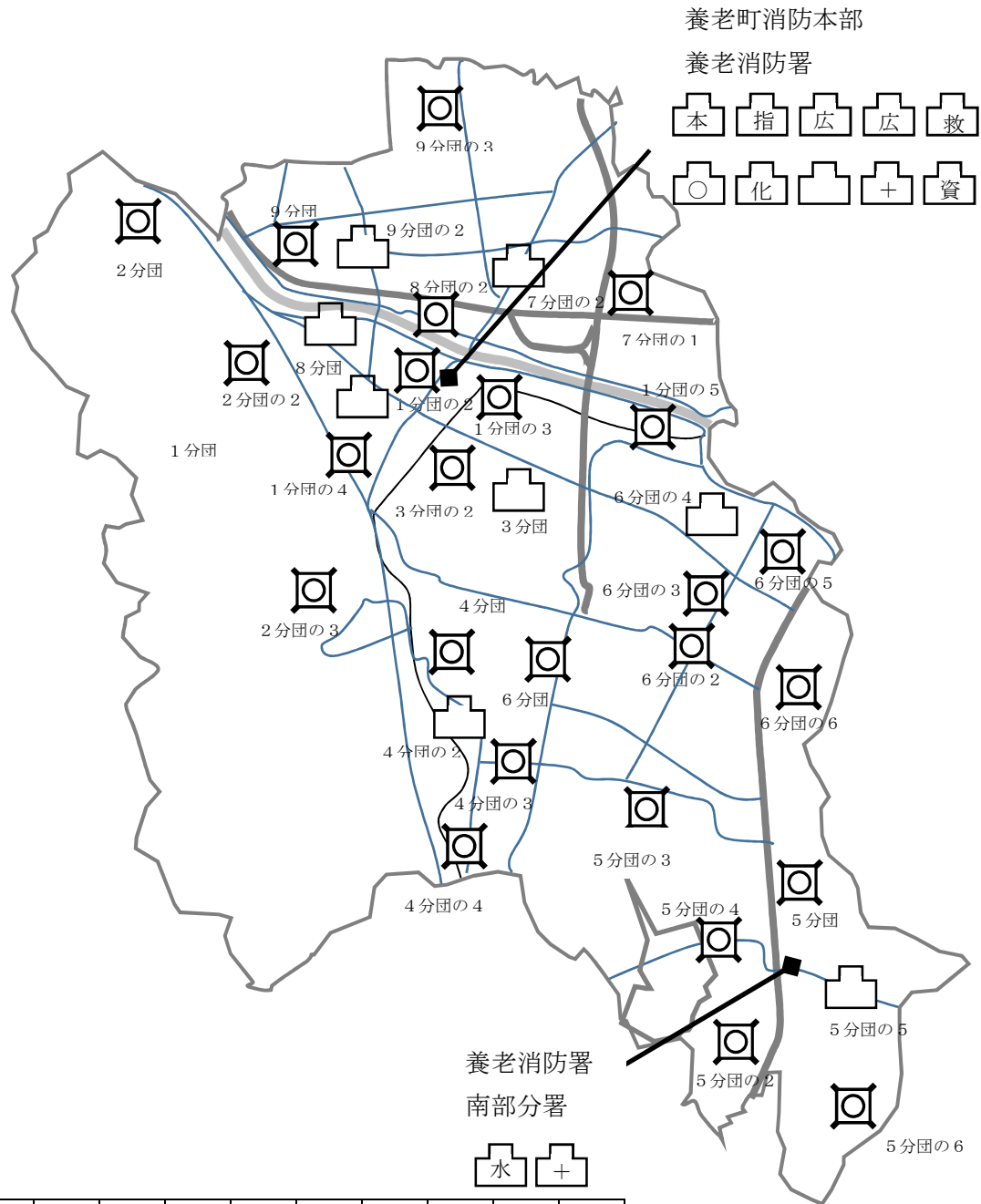
養老町消防団ポンプ配置表

分団	種別	車名	登録年	ポンプ		
				名称	型式	規格
団本部	消防団多機能車	日産	H28	トーハツ	1 段式タービン	B2
	小型ポンプ	—	R1	〃	〃	B3
	小型ポンプ	—	R1	〃	〃	B3
1分団	1 消防ポンプ自動車	三菱	H13	長野	2 段式バランスタービン	A2
	2 小型ポンプ	—	H30	トーハツ	1 段式タービン	B2
	3 小型ポンプ	—	H29	〃	〃	B2
	4 小型ポンプ	—	H26	〃	〃	B2
	5 小型ポンプ	—	H19	シバウラ	〃	B3
2分団	1 小型ポンプ	—	H14	トーハツ	〃	B3
	2 消防ポンプ自動車	日野	H27	モリタ	2 段式バランスタービン	A2
	3 小型ポンプ	—	H26	トーハツ	1 段式タービン	B2
3分団	1 消防ポンプ自動車	日野	H16	長野	2 段式バランスタービン	A2
	2 小型ポンプ	—	H29	トーハツ	1 段式タービン	B2
4分団	1 小型ポンプ	—	H17	〃	〃	B3
	2 消防ポンプ自動車	イズズ	H18	長野	2 段式バランスタービン	A2
	3 小型ポンプ	—	H25	トーハツ	1 段式タービン	B2
	4 小型ポンプ	—	H15	〃	〃	B3
5分団	1 小型ポンプ	—	H30	〃	〃	B2
	2 小型ポンプ	—	H12	〃	〃	B3
	3 小型ポンプ	—	H26	〃	〃	B2
	4 小型ポンプ	—	H17	〃	〃	B3
	5 消防ポンプ自動車	日野	H28	モリタ	2 段式バランスタービン	A2
	6 小型ポンプ	—	H19	シバウラ	1 段式タービン	B3
6分団	1 小型ポンプ	—	H29	トーハツ	〃	B2
	2 小型ポンプ	—	H30	〃	〃	B2
	3 小型ポンプ	—	H13	〃	〃	B3
	4 消防ポンプ自動車	日野	H20	長野	2 段式バランスタービン	A2
	5 小型ポンプ	—	H19	シバウラ	1 段式タービン	B3
	6 小型ポンプ	—	H25	トーハツ	〃	B2
7分団	1 小型ポンプ	—	H16	トーハツ	〃	B3
	2 消防ポンプ自動車	日野	H26	モリタ	2 段式バランスタービン	A2
8分団	1 消防ポンプ自動車	イズズ	H15	長野	〃	A2
	2 小型ポンプ	—	H16	トーハツ	1 段式タービン	B3
9分団	1 小型ポンプ	—	H15	〃	〃	B3
	2 消防ポンプ自動車	日野	H24	モリタ	2 段式バランスタービン	A2
	3 小型ポンプ	—	H14	トーハツ	1 段式タービン	B3

図表

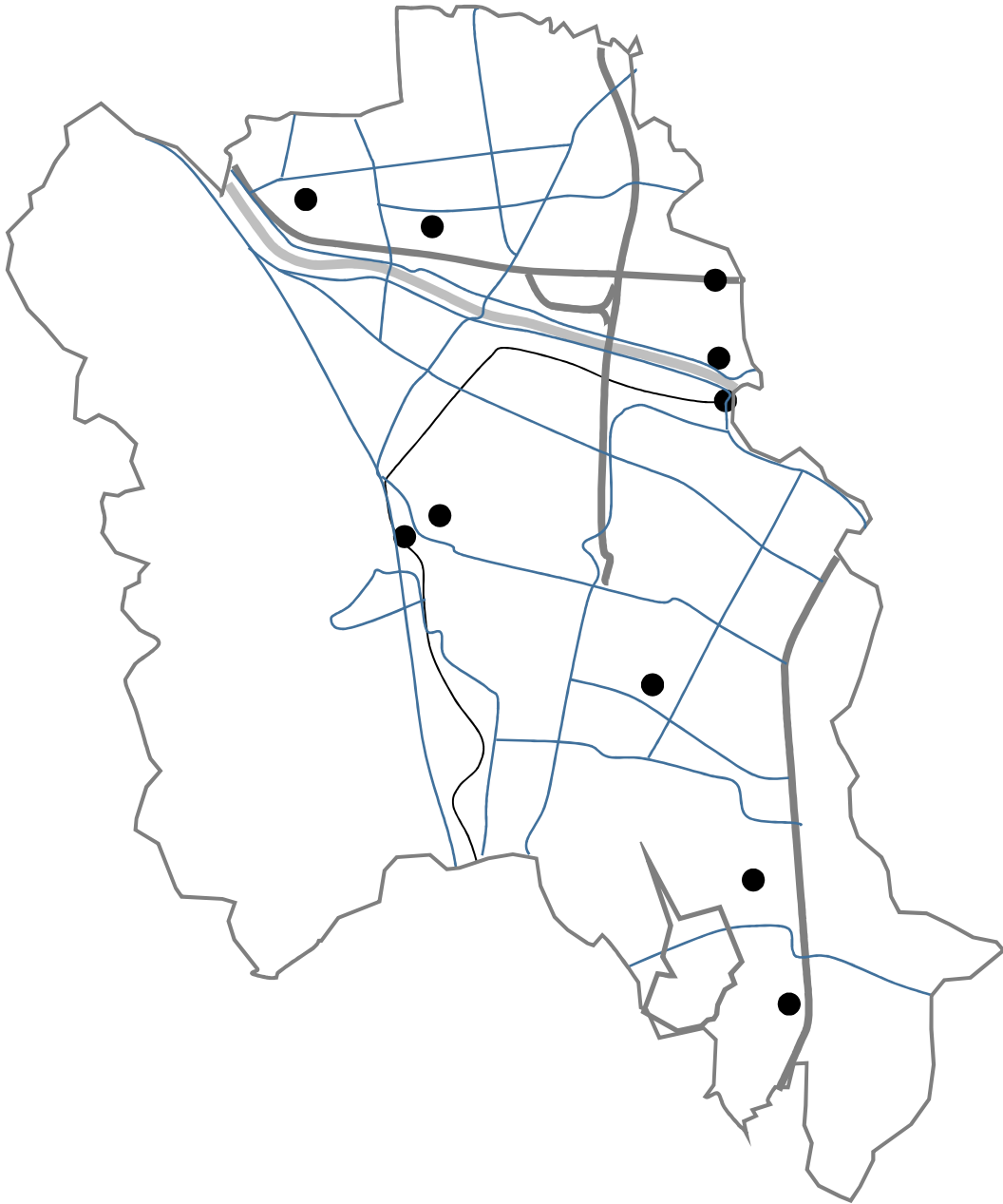


養老町消防ポンプ配置図

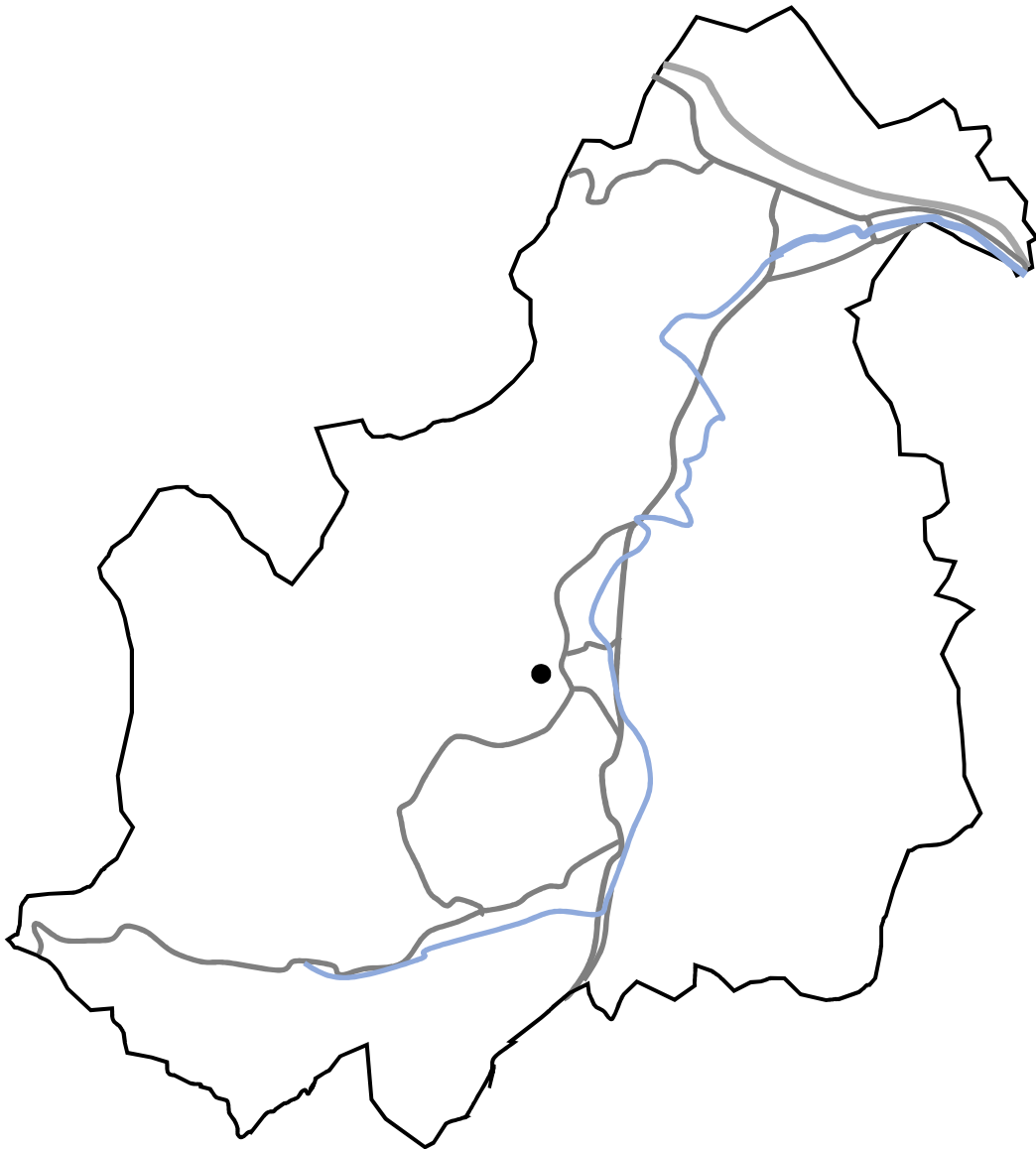


広	指	本	化	○	+	救		資	水
広 報 車	指 令 車	本 部 車	化 学 車	タ ン ク 車	救 急 車	救 助 工 作 車	自 動 車 ポ ン プ	資 機 材 搬 送 車	水 槽 付 ポ ン プ 車

養老町火災発生分布図（10件）

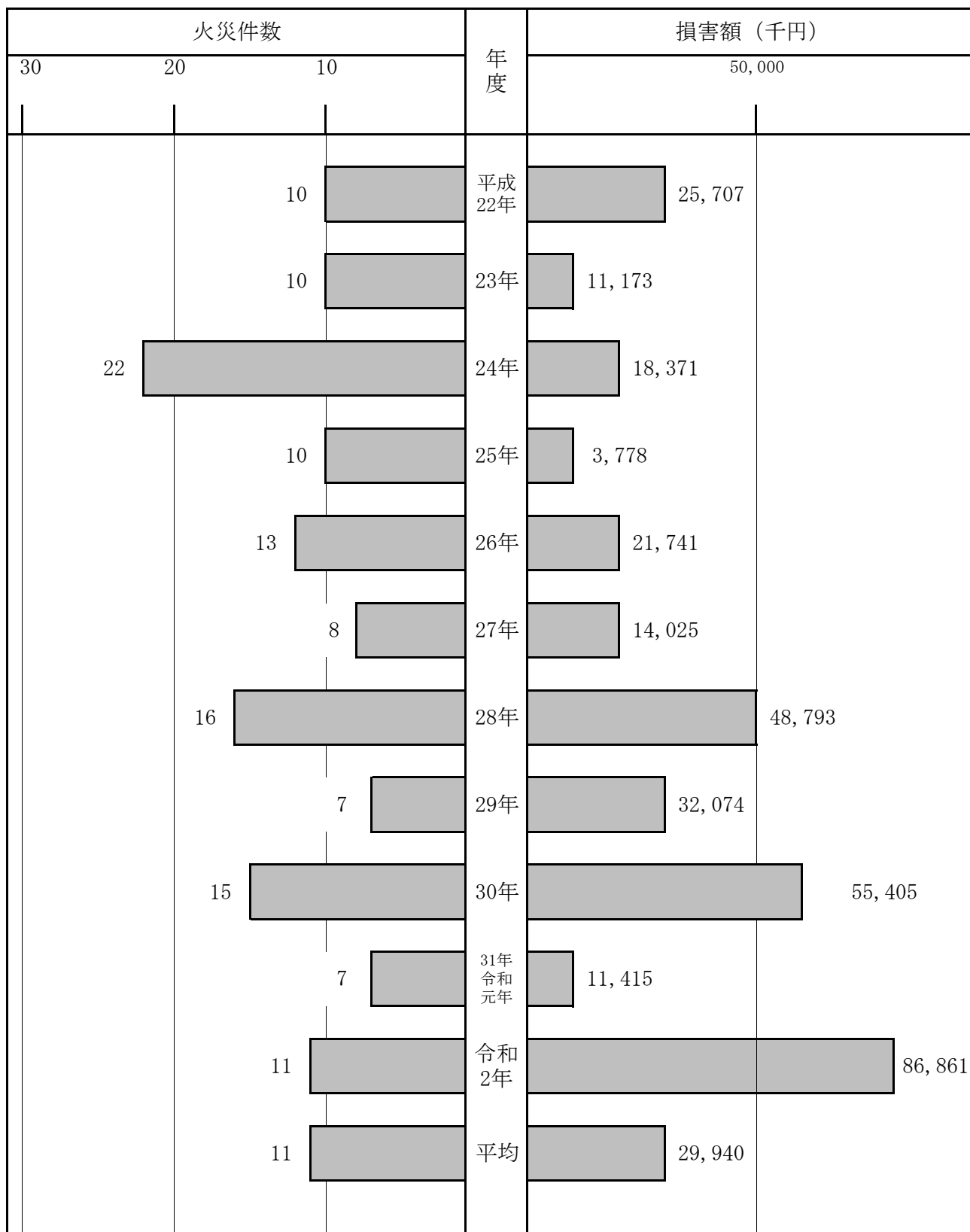


大垣市上石津町火災発生分布図（1件）



火災件数・損害額表

(平成22年～31年・令和2年)



消防水利の現況

消防水利は、消防機械とともに消防活動を行ううえで必要不可欠なものである。この水利には打込式消火栓、防火水そう、プール等の人工水利と、河川、池、沼等の自然水利とがあるが、本町では昭和57年より上水道消火栓が新設され一段と充実される。

養老町

R3.4.1

分団	種別		打込式消火栓	100m ³ 以上防火水槽	40m ³ 〜100m ³ 未満防火水槽	20m ³ 〜40m ³ 未満防火水槽	マンホール	河川・溝	濠・池等	井戸	プール	計
	水道消火栓	150mm以上										
1分団	212	45	26	2	16	1	16			2	3	278
2分団	167	29	2	1	20	1		1	1		1	194
3分団	81	13	3		8			4	1	8	1	106
4分団	137	34	10	1	34	19		5	2		1	209
5分団	176	32			36			13	8	1	1	235
6分団	167	45	5		34	5		6	1	4	2	224
7分団	103	21	4		5	2		7			1	122
8分団	106	8	12		21			1		1		141
9分団	106	24	24		17	1				1	1	150
計	1,255	251	86	4	191	29	16	37	13	17	11	1,659

大垣市上石津町

牧田					44	1					1	46
一之瀬					15						2	17
多良					66	3					1	70
時					40	6					1	47
計					165	10					5	180

火 災

出火件数は11件であり、前年と比べると4件の増加となっています。火災による損害額は86,861千円となり、前年と比べると75,446千円の増加となっています。

火災種別ごとに前年比較を見ると、建物火災9件（4件増）、林野火災0件（1件減）、車両火災2件（1件増）となっています。

また、出火原因別に見ると、「余熱の発火」4件、「不明・調査中」4件、「スパークによる引火」2件、「放火の疑い」1件となっています。

なお、火災による死者3名、負傷者が2名発生しました。今後とも、町民各位の一層の防火意識の高揚をお願いします。



火 災 統 計

区 分		年別の比較		令和2年			平成31年 令和元年	増減
		養老町	大垣市 上石津町	合計				
出火件数	合計	10	1	11	7	4		
	建物火災	8	1	9	5	4		
	林野火災				1	△ 1		
	車両火災	2		2	1	1		
	その他火災							
焼損棟数	全 焼	10	1	11	4	7		
	半 焼	1		1		1		
	部 分 焼	1		1	2	△ 1		
	ぼ や	7	1	8	1	7		
焼損面積	建物 (㎡)	床面積	1,543.0	124.0	1,667.0	445.9	1,221.1	
		表面積	24.0	0.5	24.5		24.5	
	林野 (a)				5.4	△5.4		
死傷者	死 者	3		3	0	3		
	負 傷 者	2		2	1	1		
り 災 世 帯 数		8		8	4	4		
り 災 人 員		11		11	4	7		
損害見積額 (千円)		85,950	911	86,861	11,415	75,446		

覚 知 別 件 数

覚知別	区分	合 計	火 災 種 別			
			建 物	林 野	車 両	その他
	合計	11	9		2	
火災報知専用電話 固定電話 (NTT 加入電話を除く)						
火災報知専用電話 固定電話 (NTT 加入電話)		6	6			
火災報知専用電話 携帯電話		5	3		2	
加入電話 固定電話						
加入電話 携帯電話						
警 察 電 話						
駆 け っ け 通 報						
事 後 聞 知						
そ の 他						

出火原因別火災件数

出火原因別	区分	合 計	火 災 種 別			
			建 物	林 野	車 両	その他
	合計	11	9		2	
ボ イ ラ ー						
スパークによる引火		2			2	
薪の火の粉による飛び火						
電 線 の 老 朽 化						
放 火 の 疑 い		1	1			
た き 火						
ト ラ ッ キ ン グ 現 象						
七 輪 こ ん ろ						
余 熱 の 発 火		4	4			
不 明 ・ 調 査 中		4	4			

月別火災件数(過去3年間)

年 月別	平成30年	平成31年 令和元年	令和2年
1月	1	1	1
2月	2	1	
3月	1	2	1
4月	1	1	
5月			
6月		1	1
7月	4		
8月	2		2
9月	1	1	1
10月	1		2
11月	2		1
12月			2

月別火災状況

区分 月別	出火件数					焼損面積			死傷者	
	合計	建物	林野	車両	その他	建物 (㎡)		林野(a)	死者	負傷者
						床面積	表面積			
合計	11	9		2		1,667.0	24.5		3	2
1月	1	1				750.0	2.0		1	
2月										
3月	1			1						
4月										
5月										
6月	1	1				101.0			1	
7月						394.0	19.0			
8月	2	2				79.0	19.0			
9月	1	1				124.0	0.5			
10月	2	2				221.0	1.0		1	
11月	1			1		141.8				
12月	2	2				392.0	2.0			2

救 急

救急出動件数は1,495件であり、前年と比べると137件の減少となっています。また搬送人員においては1,371人と前年比較152人の減少となっています。

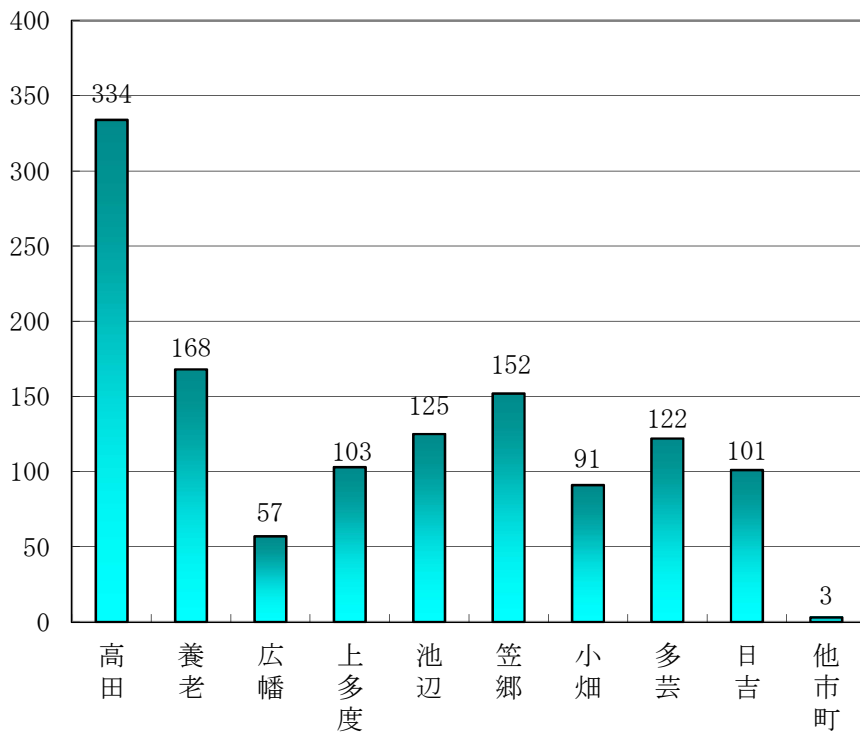
このことは、管内において1日平均3.8人の傷病者を病院に搬送したことになります。

救急種別ごとに前年比較を見ると、「急病」1,034件（87件減）、「一般負傷」227件（10件減）、「交通事故」106件（38件減）となっており、「急病」が全体の69.1%を占め、以下「一般負傷」15.2%、「交通事故」7.1%の順となっています。昨年同様、1位「急病」、2位「一般負傷」、3位「交通事故」の順となっています。

町民各位の正しい救急車の利用を理解願い、救急活動が円滑に実施できますようご協力をお願いします。



地区別救急出動件数（養老町）

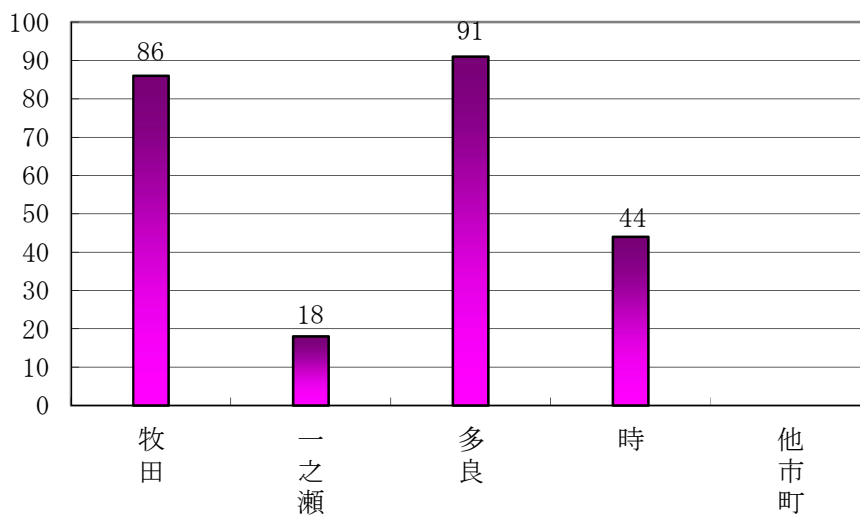


養老町

1,256 件

地区別	出場件数
高田	334
養老	168
広幡	57
上多度	103
池辺	125
笠郷	152
小畑	91
多芸	122
日吉	101
他市町	3
合計	1,256

地区別救急出動件数（大垣市上石津町）

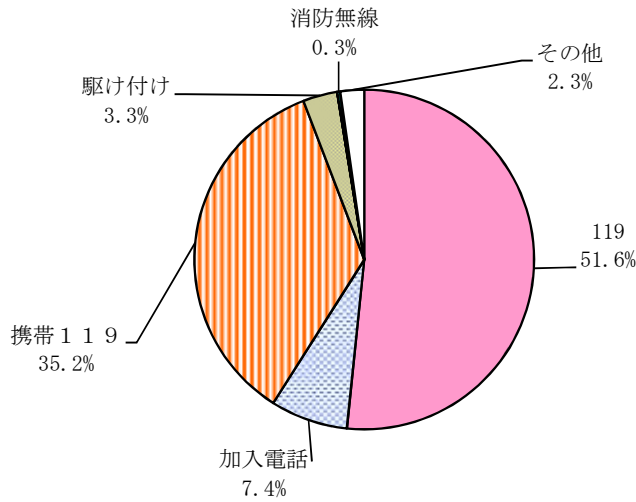


大垣市上石津町

239 件

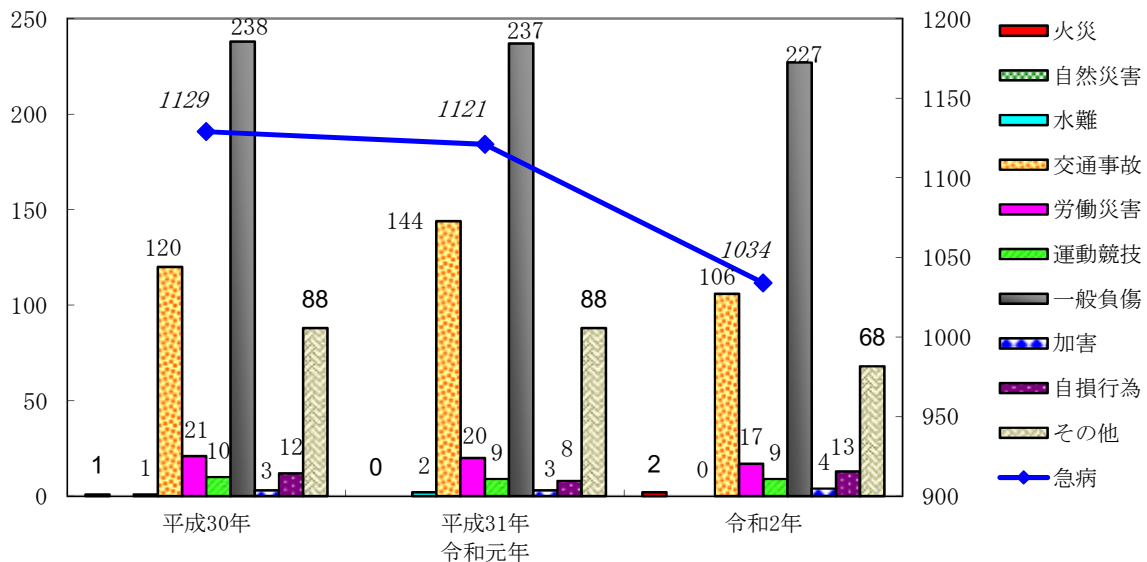
地区別	出場件数
牧田	86
一之瀬	18
多良	91
時	44
他市町	0
合計	239

覚知別通報件数



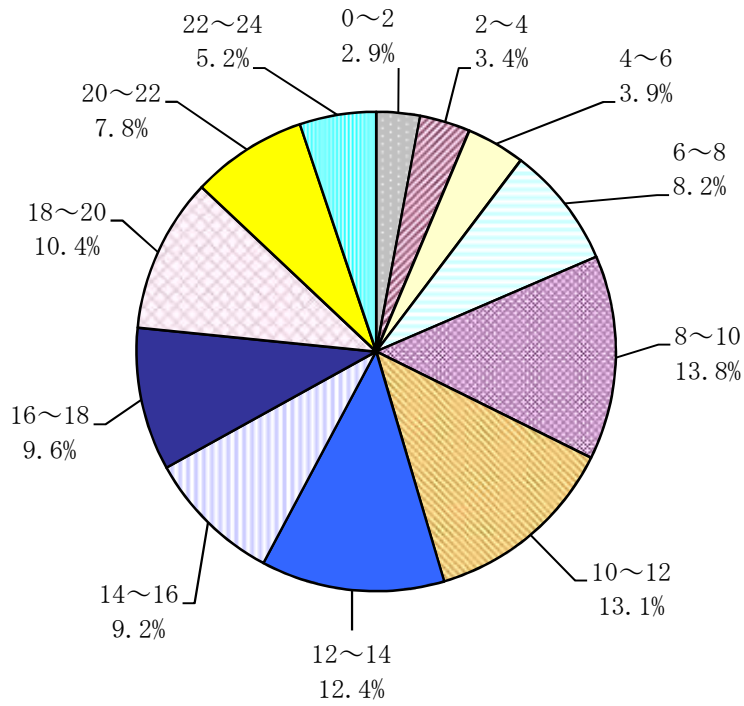
	件数	%
119	772	51.6%
加入電話	110	7.4%
携帯119	526	35.2%
駆け付け	49	3.3%
自己覚知	0	0.0%
消防無線	4	0.3%
その他	34	2.3%
合計	1,495	

救急出動件数(過去3年間)



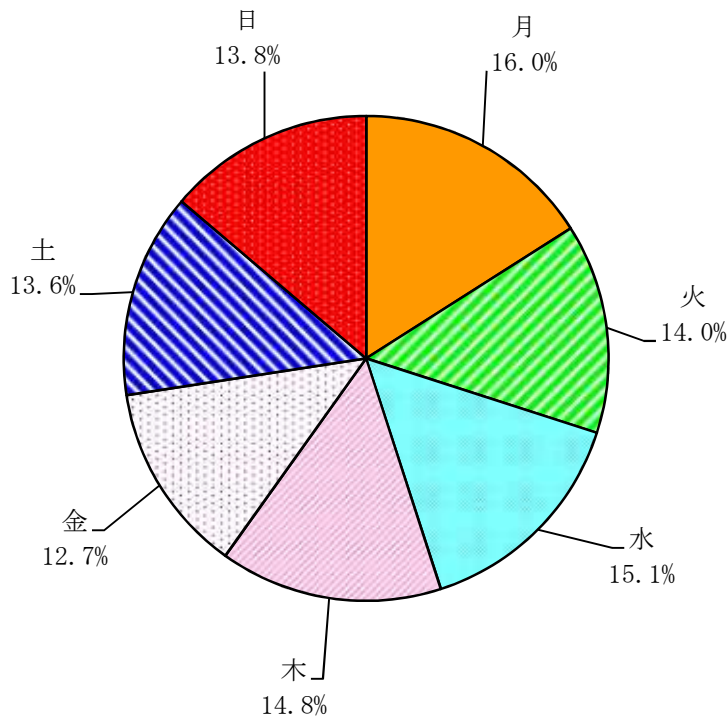
年	出動件数			搬送人員		
	平成30年	平成31年 令和元年	令和2年	平成30年	平成31年 令和元年	令和2年
合計	1,623	1,632	1,495	1,498	1,523	1,371
火災	1		2	1		1
自然災害						
水難	1	2		1	1	
交通事故	120	144	106	121	143	100
労働災害	21	20	17	21	19	17
運動競技	10	9	9	10	9	8
一般負傷	238	237	227	224	231	218
加害	3	3	4	3	2	3
自損行為	12	8	13	10	5	11
急病	1,129	1,121	1,034	1,037	1,041	945
その他	88	88	68	70	72	68

時間別救急出動件数



時間帯	件数	%
0~2	44	2.9%
2~4	51	3.4%
4~6	59	3.9%
6~8	123	8.2%
8~10	206	13.8%
10~12	196	13.1%
12~14	185	12.4%
14~16	137	9.2%
16~18	144	9.6%
18~20	156	10.4%
20~22	117	7.8%
22~24	77	5.2%
合計	1,495	

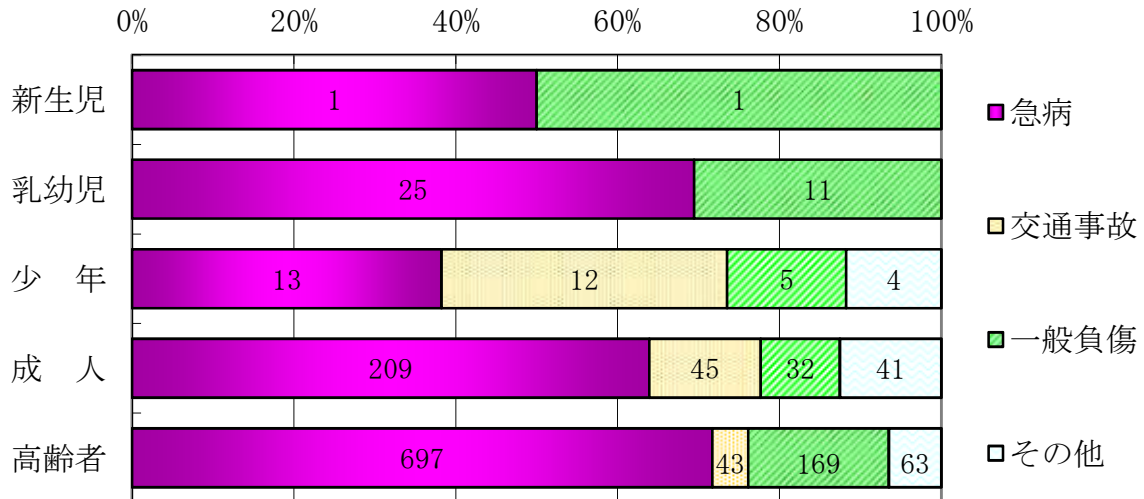
曜日別救急出動件数



曜日	件数	%
月	239	16.0%
火	209	14.0%
水	225	15.1%
木	222	14.8%
金	190	12.7%
土	204	13.6%
日	206	13.8%
合計	1,495	

※ 構成比は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、100%にならないことがあります。

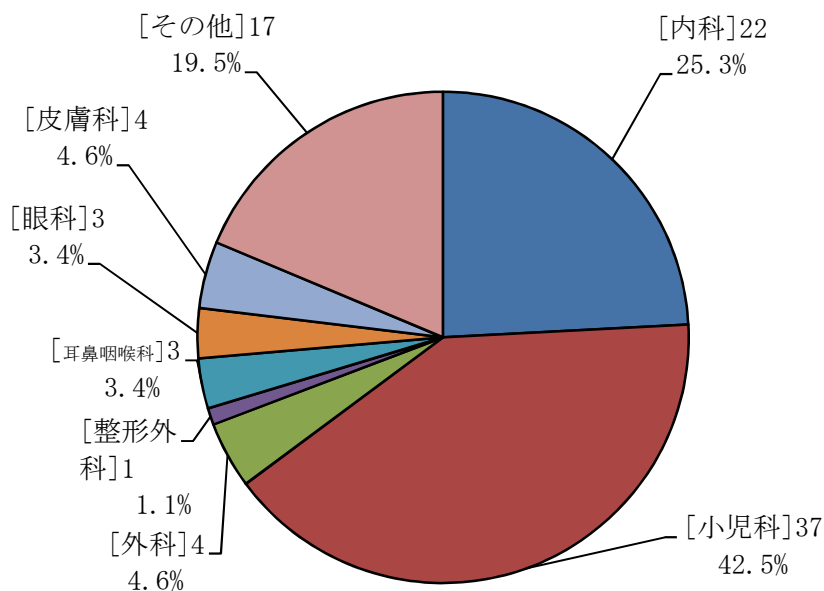
事故種別・年齢区分別搬送人員



	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
全体	945	100	218	108	1,371
新生児	1		1		2
乳幼児	25		11		36
少年	13	12	5	4	34
成人	209	45	32	41	327
高齢者	697	43	169	63	972

新生児：生後28日以内の者
 乳幼児：生後29日以上満7歳未満の者
 少年：満7歳以上18歳未満の者
 成人：満18歳以上65歳未満の者
 高齢者：満65歳以上

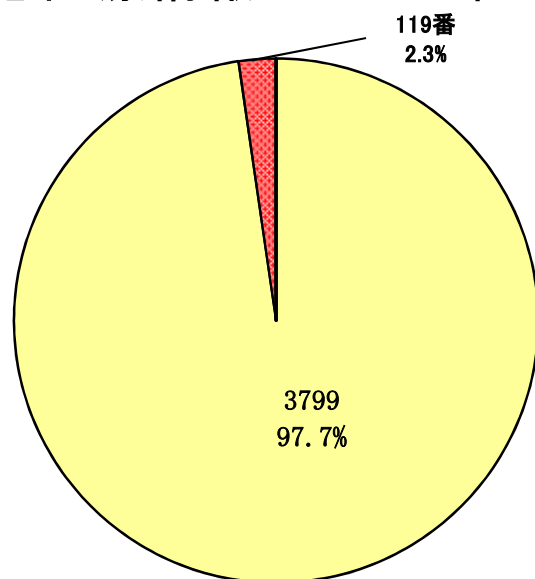
救急医療情報システム案内状況（診療科目別）



診療科目	件数	%
内 科	22	25.3%
小 児 科	37	42.5%
外 科	4	4.6%
整形外科	1	1.1%
耳鼻咽喉科	3	3.4%
眼 科	3	3.4%
皮 膚 科	4	4.6%
そ の 他	17	19.5%
合 計	87	-

※ 構成比は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、100%にならないことがあります。

救急医療情報システム案内状況（通報別）



種 別	件数	%
3799	85	97.7%
119番	2	2.3%
加入電話	0	0.0%
駆け付け	0	0.0%
合 計	87	-

普通救命講習等受講者数

講習種別	平成30年	平成31年 令和元年	令和2年
普通救命講習Ⅰ	629	461	55
普通救命講習Ⅱ			
普通救命講習Ⅲ			
上級救命講習	48	44	

救 助

災害が複雑多様化かつ大規模化する中で、消防の使命は、ますます重要性を増しており、人命救助は、消防の最も重要な任務であり、住民の消防に寄せる期待は、更に大きくなっております。

この期待に応えるため、時代の変化に即応した救助体制及び資機材の整備に加え、消防職員の救助活動に関する訓練はより高度な知識・技術が要求されます。



事故種別救助活動・出動車両状況

R2.4.1

事故種別 区分		火災	交通 事故	水難 事故	風水害 等自然 災害	機械等 による 事故	建物等 による 事故	ガス及 び酸欠 事故	破裂 事故	その他 の 事故	合計
		出動件数		7					1		
活動件数		6					1			4	11
救助人員		6					1			4	11
傷 病 程 度	死亡			3							3
	重症		2								2
	中等症		1							1	2
	軽症		4				1			2	7
	不搬送			5						1	6
	計		7	8			1			4	20
出 動 人 員	救助隊員		21				3			12	36
	消防隊員										
	救急隊員		31				3			12	46
	計		52				6			24	82
活 動 人 員	救助隊員		18				3			12	33
	消防隊員										
	救急隊員		19				3			12	34
	計		37				6			24	67
出 動 車 両 等	救助工作車		7				1			4	12
	ポンプ自動車										
	化学車										
	指令車										
	救急車		10				1			4	15
	ヘリコプター										
	その他										
	計		17				2			8	27

予 防



防 火 対 象 物 調

区分	分類別		合計	防火対象物	
				甲種	乙種
1	イ	劇場・映画館・演芸場又は観覧場	2	2	
	ロ	公会堂・集会場	25	25	
2	イ	キャバレー・カフェー・ナイトクラブの類			
	ロ	遊戯場又はダンスホール	3	3	
	ハ	風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律第2条第5項に規定する性風俗関連特殊営業を営む店舗			
	ニ	カラオケボックス等			
3	イ	待合・料理店の類	4	4	
	ロ	飲 食 店	43	10	33
4		百貨店・マーケット・店舗又は展示場	20	6	14
5	イ	旅館・ホテル・宿泊所	30	29	1
	ロ	寄宿舎・下宿・共同住宅	1	1	
6	イ	病院・診療所・助産所	13	12	1
	ロ	主に入居を伴う社会福祉施設 (老人短期入所施設、特別養護老人ホーム等)	21	21	
	ハ	主に通所の社会福祉施設 (老人デイサービスセンター等)	32	22	10
	ニ	幼稚園・盲学校・聾学校又は養護学校			
7		小学校・中学校・高等学校・その他	17	17	
8		図書館・博物館又は美術館	1		1
9	イ	公衆浴場のうち蒸気浴場・熱気浴場			
	ロ	イに掲げる公衆浴場以外の公衆浴場	1		1
10		車両の停車場又は船舶・航空機の発着場	13	11	2
11		神社・寺院・教会・その他	79	36	43
12	イ	工場又は作業場	136	136	
	ロ	映画スタジオ又はテレビスタジオ			
13	イ	自動車車庫又は駐車場	1	1	
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫			
14		倉 庫	78	78	
15		前各項に該当しない事業場	39	38	1
16	イ	複合用途防火対象物のうち 1項～4項、5項のイ、 6項又は9項のイ	6	6	
	ロ	イ以外の複合用途防火対象物	1	1	
16の2		地 下 街			
16の3		準地下街			
17		重要文化財・重要民俗資料			
18		延長50m以上のアーケード			
19		市町村の指定する山林			
20		自治省令で定める舟車			
		合 計	566	459	107

消防用設備等の指導

不幸にして火災が発生したとき、①早く知り、知らせる。②早く消す。③安全避難が大切です。このため消防法では、一定の防火対象物の構造、用途、規模に応じた消防用設備の設置、及び維持管理を義務付けています。これら消防用設備が法令の技術上の基準に適合して設置されることで火災が発生した場合には、その機能が非常時に有効に働くよう維持管理の指導を行っています。

対象物別消防用設備状況

養老町・大垣市上石津町

設置対象物用途別		設備名	消火設備				警報設備			避難設備		消火活動上必要な施設		
			設屋内消火備栓	設屋外消火備栓	火スプリンクラー設備	連結散水設備	連結送水管	設自動火災報知備知	非常警報設備	警漏電報火器災	誘導灯	避難器具	消防用水	排煙設備
1	イ	劇場・映画館・演芸場又は観覧場	1					2			2			
	ロ	公会堂・集会場等	4					25	6		24			
2	ロ	遊技場・ダンスホール	1		1			3	2		3			1
3	イ	待合・料理店						4			4			
	ロ	飲食店	2					9	10	1	58	1		
4		百貨店・マーケット等	7		4			28	25		45			
5	イ	旅館・ホテル・宿泊所	5					9		3	10	5		
	ロ	寄宿舎・共同住宅等					1	15	17			22		
6	イ	病院・診療所・助産所	2		1		1	10	6		27	2		
	ロ	主に入居を伴う社会福祉施設	1		20		1	20	5		19	5		
	ハ	主に通所の社会福祉施設	2		1			24	5		34	2		
	ニ	幼稚園又は特別支援施設学校												
7		小・中・高・大学・各種学校	16					17	6			12		
8		図書館・博物館又は美術館							1		1			
9	ロ	公衆浴場												
11		神社・寺院・教会 その他これらに類するもの	1					1						
12	イ	工場又は作業場	60	11				140		3	7		14	
13	イ	自動車車庫又は駐車場						1			1			
14		倉庫	15	5				71			2		1	
15		前各項に該当しない事業場	10				1	26	3		2		1	
16	イ	複合用途防火対象物のうち1項～4項、 5項のイ6項又は9項のイ	4					6	4		6	1		
	ロ	イ以外の複合用途防火対象物						3				1		
17		重要文化財・ 重要民俗資料等建造物		1				3						
合計			131	17	27		4	417	90	7	245	51	16	1

危険物製造所等地区別現況表

(完成検査済分)

製造所等 地区別		合 計	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所		
				屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク	屋 内 タ ン ク	地 下 タ ン ク	簡 易 タ ン ク	移 動 タ ン ク	屋 外 貯 蔵 所	給 油 取 扱 所	販 売 取 扱 所	一 般 取 扱 所
養 老 町	高 田	39	1	5	3		13		4	1	7		5
	養 老	19		2	6		4		3		1		3
	広 幡	6		2	1		1				1		1
	上多度	29		2	18		2			2	1		4
	池 辺	11			2	1	2				2		4
	笠 郷	18		4			5			1	4		4
	小 畑	9		3			1		1	1	3		
	多 芸	34		4	11		3		10	1	1		4
	日 吉	16		4	3		2			1	3		3
小 計		181	1	26	44	1	33		18	7	23		28
上 大 垣 市 石 津 町	牧 田	34	1	4	13		4				3		9
	一之瀬	11			3		1		4		2		1
	多 良	12					4		2		4		2
	時	3									2		1
小 計		60	1	4	16		9		6		11		13
合 計		241	2	30	60	1	42		24	7	34		41

類別危険物製造所等調

(完成検査済分)

製造所等 類別		合 計	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所		
				屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク	屋 内 タ ン ク	地 下 タ ン ク	簡 易 タ ン ク	移 動 タ ン ク	屋 外 貯 蔵 所	給 油 取 扱 所	販 売 取 扱 所	一 般 取 扱 所
単 独	第1類												
	第2類												
	第3類												
	第4類	241	2	30	60	1	42		24	7	34		41
	第5類												
	第6類												
混 在													
合 計		241	2	30	60	1	42		24	7	34		41

数量別危険物製造所等調

(完成検査済)

製造所等の別 倍数別	合 計	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所		
			屋内貯蔵所	屋外タンク	屋内タンク	地下タンク	簡易タンク	移動タンク	屋外貯蔵所	給油取扱所	販売取扱所	一般取扱所
5 倍 以 下	87	1	11	9	1	20		15	5	9		16
1 5 0 倍 を 超 え 5 0 倍 を 以 下	52		13	15		6		5	2	2		9
1 0 0 倍 を 超 え 5 0 倍 を 以 下	69	1	6	30		13				5		14
1 5 0 0 倍 を 超 え 1 0 0 倍 を 以 下	10			3		1		4		1		1
1 0 0 0 倍 を 超 え 1 5 0 倍 を 以 下	10			3		1				5		1
1 5 0 0 倍 を 超 え 2 0 0 倍 を 以 下	3									3		
2 0 0 0 倍 を 超 え 1 0 0 0 倍 を 以 下	10					1				9		
超 1 0 0 0 倍 を え る も の												
計	241	2	30	60	1	42		24	7	34		41

危険物製造所等設置変更許可件数表

製造所等の別 区分	合 計	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所		
			屋内貯蔵所	屋外タンク	屋内タンク	地下タンク	簡易タンク	移動タンク	屋外貯蔵所	給油取扱所	販売取扱所	一般取扱所
設 置	3		1			1						1
変 更	13					1		1		7		4

危険物製造所等完成検査済証交付件数表

製造所等の別 区分	合 計	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所		
			屋内貯蔵所	屋外タンク	屋内タンク	地下タンク	簡易タンク	移動タンク	屋外貯蔵所	給油取扱所	販売取扱所	一般取扱所
設 置	3		1			1						1
変 更	13					1				7		5

建築同意構造統計表

種別	月別		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	小計													
木造	12				1	1	2	1	1	1	1	2	1	1
鉄骨造	28	1			3		3	2	2		4	5	4	4
耐火構造	3											1	2	
木質パネル	0													
その他	0													
合計	43	1	0	4	1	5	3	3	1	5	8	7	5	

建築同意工事別統計表

種別	月別		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	小計													
新築	36	1			4	1	4	1	2	1	4	8	6	4
増築	7						1	2	1		1		1	1
改築	0													
その他	0													
合計	43	1	0	4	1	5	3	3	1	5	8	7	5	

各種届出処理状況

届出種別	件数	届出種別	件数
消防用設備点検結果報告書	450	煙火打上げ届け	25
道路工事届	210	発電・変電・蓄電池設備設置届	17
火災とまぎらわしい届	144	誓約書	10
消防訓練実施（計画）報告書	131	防火対象物点検結果報告書	12
消防計画作成（変更）届	55	防火対象物使用開始届	18
防火管理者選・解任届	35	少量危険物貯蔵・取扱届	14
消防用設備工事計画書	29	通行禁止又は制限の通知	58
工事整備対象設備等着工届	50	催物開催届け	7
消防用設備等設置届	53	その他	25
動産・不動産り災申告書	22		

業態別建築物確認申請同意状況

業態	月別												合計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
住 宅										1		1	2
店舗付住宅						1							1
車庫付住宅													
作業場付住宅													
車 庫							1						1
共 同 住 宅 長 屋					1								1
物 置													
店 舗							1			1	2		4
倉 庫			1		1							1	3
農 業 用 倉 庫									1			1	2
工 場					2	1				2			5
作 業 所												1	1
事 務 所			1				1		1		1		4
研 修 所													
学 校													
倉庫付住宅						1			1				2
幼 稚 園													
病院・医院				1	1								2
寄 宿 舎 ・ 寮	1									1			2
給油取扱所													
事務所付住宅											1		1
飲 食 店									1	1	1		3
老人福祉施設													
保 育 園								1	1				2
寺 院 ・ 神 社 教 会													
そ の 他			2							2	2	1	7
合 計	1		4	1	5	3	3	1	5	8	7	5	43

気象



月 別 気 象

(標高10m)

天候別	月別												合 計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
晴	17	18	18	20	15	10	6	20	13	19	23	20	199
曇	13	7	6	6	13	12	14	9	14	7	4	7	112
雨	1	4	7	4	3	8	11	2	3	5	3	2	53
雪												2	2

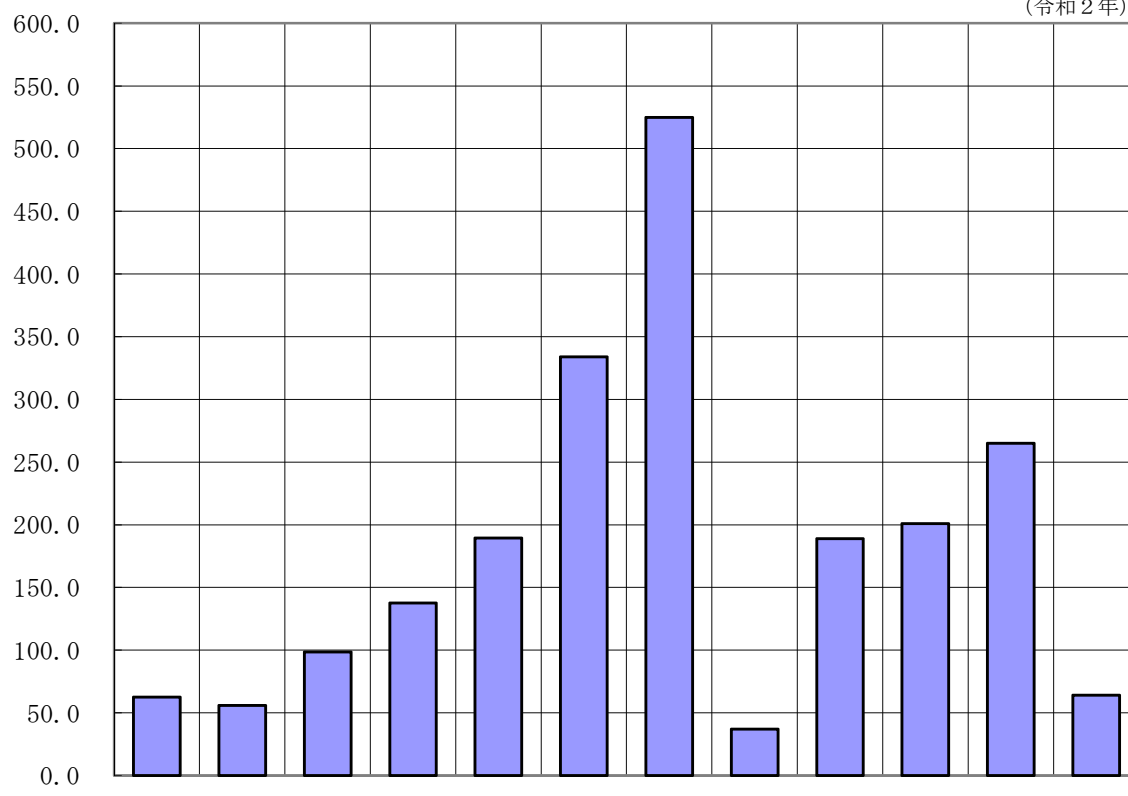
種別	月別												平均	最低	最高	起時
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
気温 (℃)	最高	17.2	18.1	22.4	25.2	30.2	32.9	35.1	37.4	34.7	27.3	16.2	37.4	-	-	8月20日
	最低	-1.0	-3.6	-1.0	3.4	10.3	16.5	18.0	22.0	16.2	6.1	-0.3	-	-1.0	-	2月7日
	平均	7.1	6.3	9.5	12.2	19.3	23.7	24.5	29.4	24.4	17.1	13.0	16.1	-	-	-
湿度 (%)	最高	99.7	99.4	99.4	99.4	99.1	99.4	99.7	99.7	98.3	98.6	98.6	99.7	-	-	7月27日
	最低	40.0	34.4	19.4	15.8	18.3	27.4	47.7	36.1	38.0	31.0	34.7	15.8	-	-	4月9日
	平均	81.9	80.2	76.2	70.1	75.6	81.1	91.9	75.7	81.8	76.8	84.4	79.9	-	-	-
風	実効速度	83.4	76.9	75.4	73.5	68.2	79.1	88.9	83.1	81.0	78.7	82.1	79.6	52.2	79.6	-
	平均風速(m/s)	3.6	3.5	3.6	4.1	3.1	2.8	2.1	2.2	2.5	0.9	3.5	3.1	-	3.1	-
	平均風向	西北西	西北西	西北西	西北西	西北西	北西	西北西	西北西	北西	北西	西北西	-	-	-	-
	最大瞬間風速(m/s)	28.4	21.9	26.1	23.2	22.8	16.2	21.7	18.0	22.8	15.5	24.1	28.4	-	-	1月8日
	最大瞬間時風向	西	西	西北西	西	西北西	西北西	西	東	南東	西北西	西	-	-	-	-
雨量 (mm)	時間最大雨量	5.5	6.5	6.5	9.5	30.5	26.5	27.0	24.5	23.5	4.0	3.5	30.5	-	-	5月26日
	日最大雨量	27.0	25.0	36.0	48.5	74.5	70.5	73.5	24.5	49.0	53.5	21.0	74.5	-	-	5月16日
	月積算雨量	62.5	56.0	98.5	137.5	189.5	334.0	525.0	37.0	189.0	201.0	64.0	525.0	-	-	7月25日
気圧(Hpa)	1,017.7	1,018.0	1,012.8	1,012.1	1,011.2	1,005.2	1,006.7	1,006.5	1,012.5	1,013.5	1,017.3	1,019.4	982.1	1,030.6	-	-

年

風向頻度 (%)	年															
	北	北北東	北東	東北東	東	東南東	南東	南南東	南	南南西	西南西	西	西北西	北西	北北西	
静穏: 1.8%	2.2%	1.2%	1.2%	1.7%	2.6%	3.1%	6.5%	3.7%	2.4%	1.9%	1.8%	2.1%	7.8%	29.9%	24.6%	5.3%

雨 量 統 計

(令和2年)



(単位：mm)

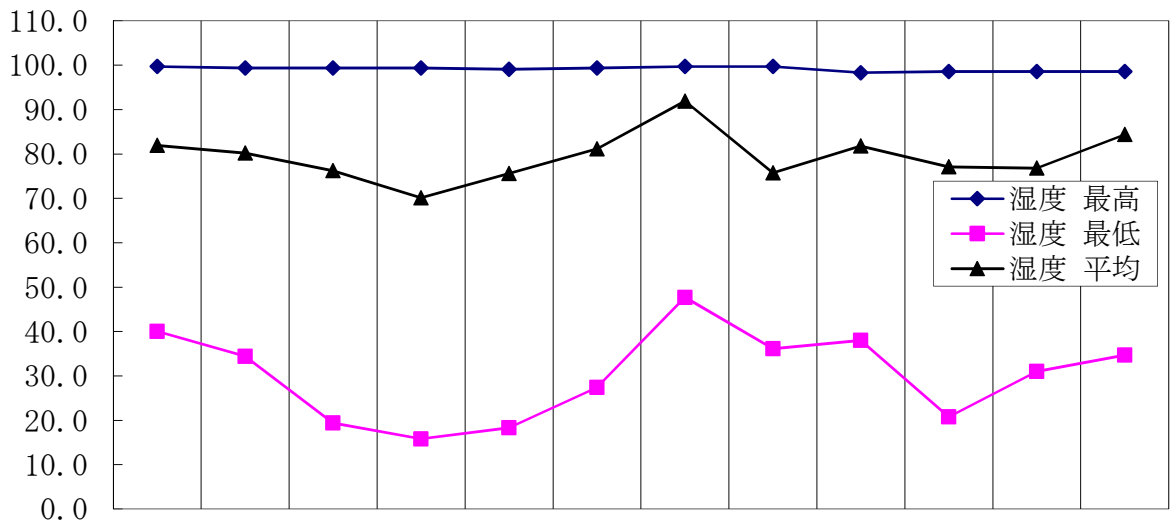
項目 \ 月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間 総雨量
雨量 (mm)	62.5	56.0	98.5	137.5	189.5	334.0	525.0	37.0	189.0	201.0	265.0	64.0	1,920.5

過去5年間の雨量統計

(単位：mm)

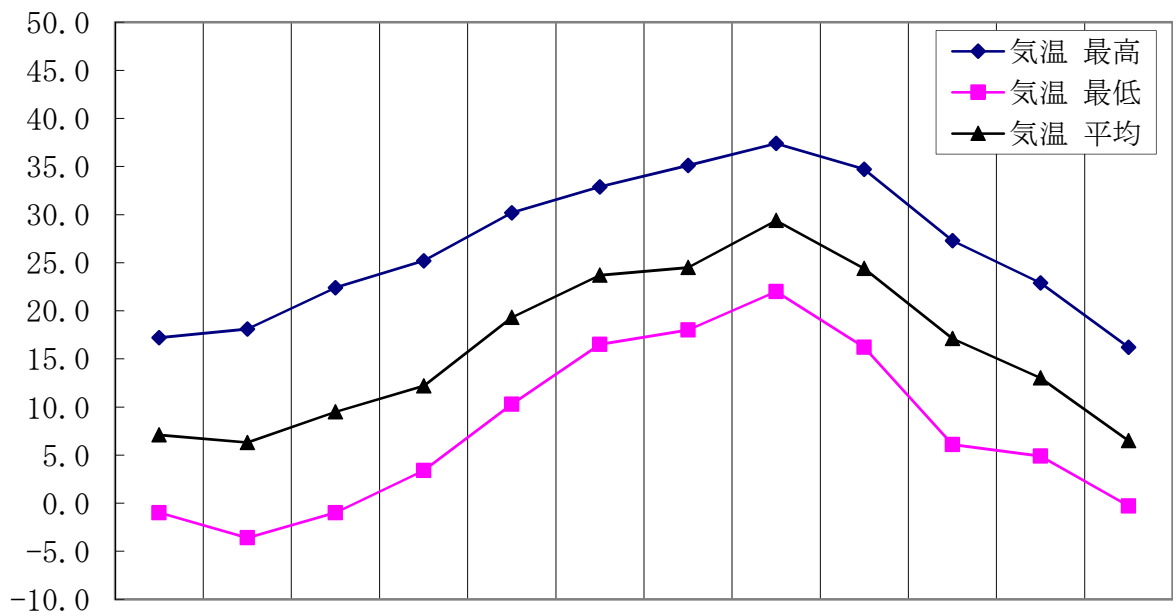
年 \ 月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間 総雨量
平成31年 令和元年	18.5	34.0	65.0	165.5	119.5	236.0	354.0	276.5	59.0	264.5	12.0	65.0	1,669.5
平成30年	61.5	22.5	171.5	213.5	272.5	218.5	363.5	121.5	470.5	57.0	45.5	76.5	2,094.5
平成29年	51.5	49.5	68.5	175.5	84.0	219.5	164.0	197.5	171.5	570.5	39.5	54.5	1,846.0
平成28年	66.0	71.0	89.5	232.5	189.0	342.0	241.0	60.5	395.0	138.5	76.0	64.5	1,965.5
平成27年	101.0	55.0	162.5	162.0	174.5	336.0	287.5	297.0	321.0	71.5	150.5	146.5	2,265.0

月 別 湿 度 表



項目		月											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
湿度	最高	99.7	99.4	99.4	99.4	99.1	99.4	99.7	99.7	98.3	98.6	98.6	98.6
	最低	40.0	34.4	19.4	15.8	18.3	27.4	47.7	36.1	38.0	20.8	31.0	34.7
	平均	81.9	80.2	76.2	70.1	75.6	81.1	91.9	75.7	81.8	77.1	76.8	84.4

月 別 気 温 表



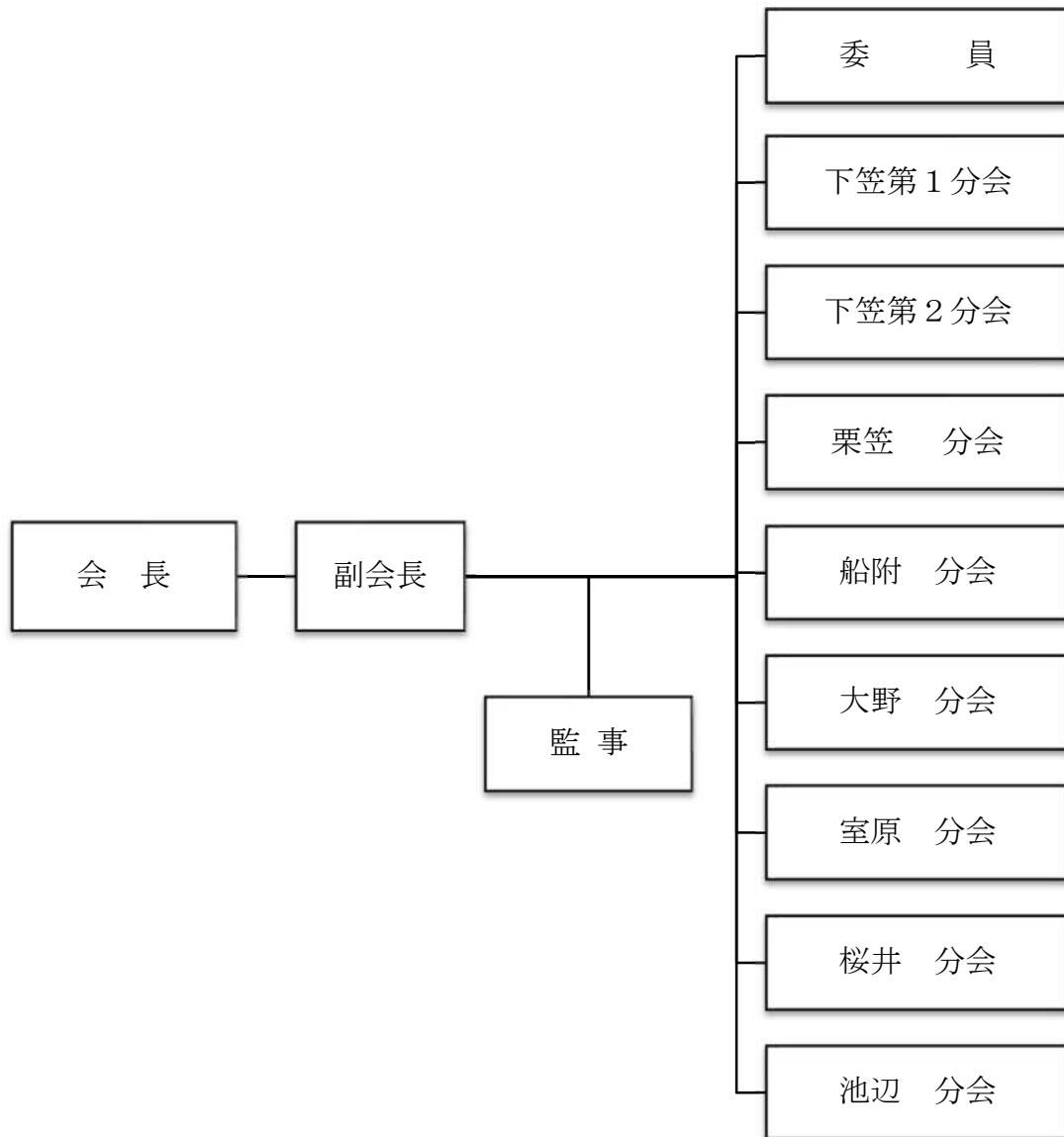
項目		月											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
气温	最高	17.2	18.1	22.4	25.2	30.2	32.9	35.1	37.4	34.7	27.3	22.9	16.2
	最低	-1.0	-3.6	-1.0	3.4	10.3	16.5	18.0	22.0	16.2	6.1	4.9	-0.3
	平均	7.1	6.3	9.5	12.2	19.3	23.7	24.5	29.4	24.4	17.1	13.0	6.5

女性防火クラブ



女性防火クラブ連絡協議会構成

R3. 4. 1



養老町女性防火クラブ連絡協議会会員数調

R3. 4. 1

区分 分会名	会 員	準会員	合 計
下 笠 第 1 分 会	33	71	104
下 笠 第 2 分 会	54	250	304
栗 笠 分 会	15		15
船 附 分 会	63	82	145
大 野 分 会	63	25	88
室 原 分 会	15		15
桜 井 分 会	32		32
池 辺 分 会	195		195
合 計	470	428	898

各分会において、年間行事計画を作成し家庭を始め、各地区の火災予防に力を尽くしています。

主な活動内容

- 1. 規律訓練
- 1. 防火座談会
- 1. 炊き出し訓練
- 1. 空き缶コンロ講習会
- 1. 夜まわり
- 1. 他町村女性防火クラブとの交流
- 1. 全員参加による防火研修会
- 1. その他、消防団行事に参加等

少年消防クラブ



少年消防クラブ員章

幼年消防クラブ



少年消防クラブ名及びクラブ員数

R3. 4. 1

クラブ名	クラブ員数
東 部 中 学 校 少 年 消 防 ク ラ ブ	315
上 多 度 小 学 校 少 年 消 防 ク ラ ブ	70
日 吉 小 学 校 少 年 消 防 ク ラ ブ	19
広 幡 小 学 校 少 年 消 防 ク ラ ブ	42
養 老 小 学 校 少 年 消 防 ク ラ ブ	77
池 辺 小 学 校 少 年 消 防 ク ラ ブ	88
養 北 小 学 校 少 年 消 防 ク ラ ブ	85
笠 郷 小 学 校 少 年 消 防 ク ラ ブ	99
合 計	795

幼年消防クラブ名及びクラブ員数

R3. 4. 1

クラブ名	クラブ員数
池 辺 こ ど も 園 幼 年 消 防 チ ビ ッ 子 ク ラ ブ	87
養 老 こ ど も 園 幼 年 消 防 チ ビ ッ 子 ク ラ ブ	100
日 吉 こ ど も 園 幼 年 消 防 チ ビ ッ 子 ク ラ ブ	37
船 附 こ ど も 園 幼 年 消 防 チ ビ ッ 子 ク ラ ブ	54
広 幡 こ ど も 園 幼 年 消 防 チ ビ ッ 子 ク ラ ブ	38
養 北 こ ど も 園 幼 年 消 防 チ ビ ッ 子 ク ラ ブ	87
め ぐ み 保 育 園 幼 年 消 防 チ ビ ッ 子 ク ラ ブ	33
下 笠 保 育 園 幼 年 消 防 チ ビ ッ 子 ク ラ ブ	92
よ う ろ う 保 育 園 幼 年 消 防 チ ビ ッ 子 ク ラ ブ	25
合 計	553

火の用心7つのポイント

1. 家のまわりに燃えやすいものを置かない。
2. 寝たばこやたばこの投げ捨てをしない。
3. 天ぷらを揚げるときは、その場を離れない。
4. 風の強いときは、たき火をしない。
5. 子供には、マッチやライターで遊ばせない。
6. 電機器具は正しく使い、たこ足配線はしない。
7. ストープには燃えやすいものを近づけない。

テレホンサービス (0584) 32-3344
救急医療情報センター (0584) 32-3799

養老町消防本部	〒503-1392
養老消防署	岐阜県養老郡養老町高田798番地
	TEL (0584) 32-0012
	FAX (0584) 32-2004
	ホームページアドレス http://www.yoro-gifu.jp/
養老消防署	〒503-1622
上石津分署	岐阜県大垣市上石津町上原1370番地1
	TEL (0584) 45-3004
	FAX (0584) 45-3027
養老消防署	〒503-1274
南部分署	岐阜県養老郡養老町瑞穂379番地1
	TEL (0584) 37-2203
	FAX (0584) 37-2513